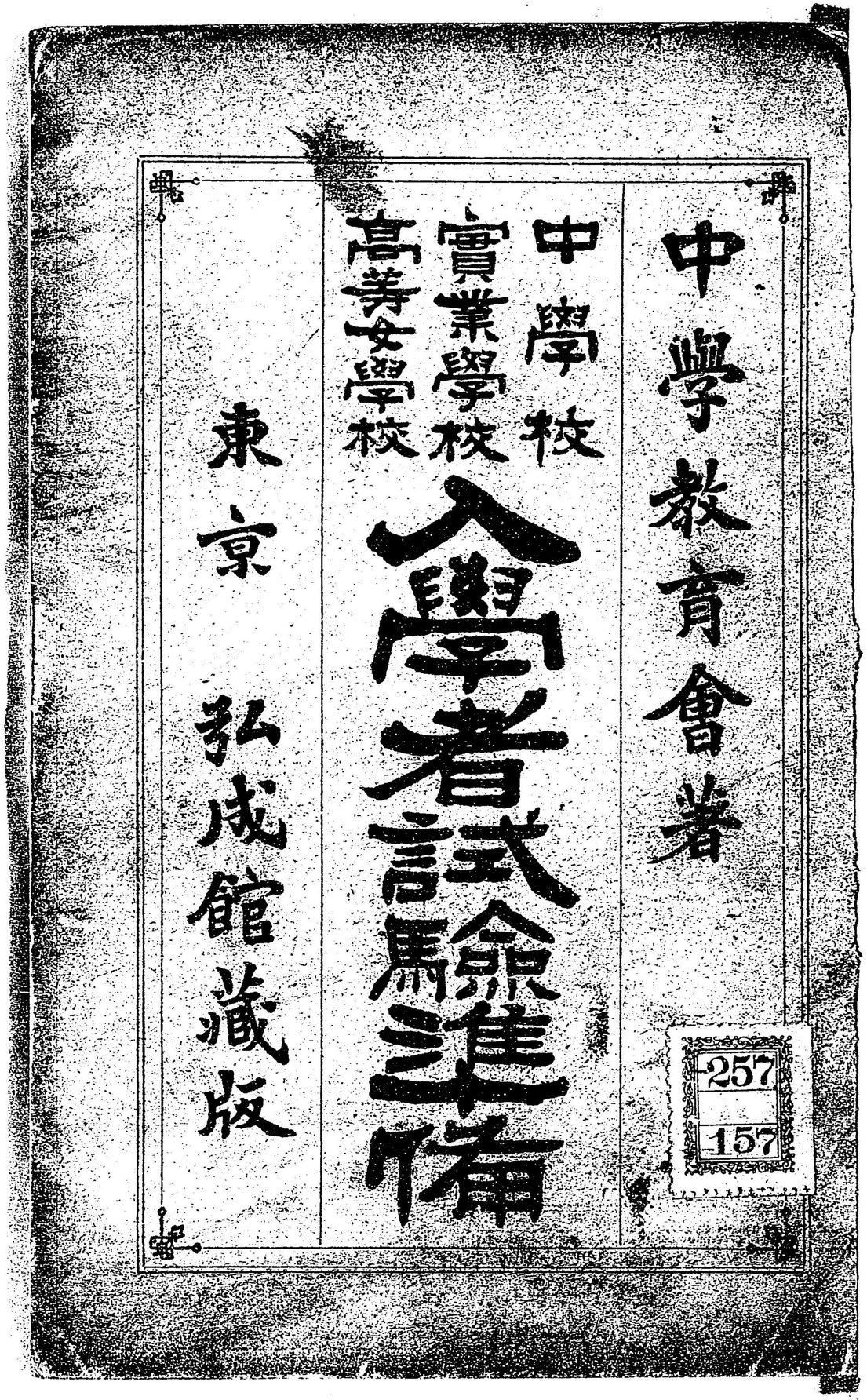


049516-000-4

特26－14

中学校実業学校高等女学校入学者試験準備

中学教育会／編

M40

BEM－0179

特26
14

中學教育會著

中學校 實業學校 高等學校 入學者試驗準備

東京 弘成館藏版

明治
40 8 26
内交

序言

本書は、中學校、高等女學校及び、之と同程度なる實業諸學校に入學せんとする者の準備に充てんが爲め、編纂したるものなり。

されば、本會は、本書を編纂するに當りて、廣く、各地の中學校、實業學校、高等女學校の入學試驗問題を蒐集して、適當に之を排列し、更に、應用力を養成するに足るべき、各種の練習事項を加へ、易きより難きに進むの方針に依つて、秩序正しく、記述せり。

故に、本書は、生徒諸子が入學受驗準備の獨修用として、

適切なるは云ふまでもなく、家庭又は、學校に於て、準備的示教をなすには、最も、好箇の參考書たるべし。

要するに、前途多望の青年諸子が、巧に、本書を利用して、善く、競爭場裡に勝利を得られなば、編者の幸榮、何物か、之に如かん。

明治四十年七月

編者識す

例言

○國語科

讀書力を養成し、文章を熟達せしむるは、本科の目的なり。本書は、この目的を達せしめんが爲め、特に、意をこゝに用ゐたり。

本科は、分ちて講讀、書取、綴方、書方の四とす、今、左に、練習上注意すべき要項を述べん。

一、講讀の際には、必ず、發音を明瞭にし、解釋に於ては、正確に、文字の意義と、全文の大意とを發表することをつとめ、かの方言、訛言の如きは、つとめて之を避けざるべからず。又、筆にて解答を認むる練習をなすべし。

二、書取は、文字を正確に記し、一點一畫にても、誤らざる樣にすべく、また、類字（瓜と爪。釘と針の類。）に注意すべし。本書に於ける書取（假名を漢字に改むる）の答案は、まとめて、第一編の終に示し置けり、練習の際には、必ず、參照すべし。

三、綴方は、題に應じて、先づ記述の順序を定め、後に筆を執り記述終らば、再三、之を讀んで、自ら、その文の缺點を見出し、幾度も改作する樣にすべし。これ文の上達を計る最良法なり。

四、書方……第一編、第廿五章を見よ。

第三章の如く「短句及び短文」とせる章には、多く、既習の練習的材料を採り、これに最近各府縣立諸學校の入學試驗問題を、適當に排次したり。

○算術科

數字を明瞭に書き、計算を敏速にし、諳算に習熟する等のことは、算術を學ぶもの、第一に心得べき要件なり。本書は、練習問題に加ふるに、懇切なる解式を以てし、かつ、應用力を養成することに、意を用ゐたり。なほ、左に、一二注意すべきことを擧げん。

一、初に概算せよ。是は、その問題の答を出す前に、概算にて、大凡、何程となるべきかを、考へおくことなり。例へば、米一升の價の答なれば、大抵、拾八錢位なるべき筈なるに、位取りを誤りて壹圓八拾錢とし、或は、壹錢八厘と答へ、また、全く、計算を誤れるが爲に、八拾錢と云ふ答を得ても、毫も怪まざる類は、何れも、概算せざるによりて起る弊なり。

二、等號に＝に注意せよ。これは、多く見る所の弊にして、例へば、

3+2=5

5×2=10　　答十ケ　（正）

とすべきを

3+2=5×2=10　答十ケ　（不正）

とする類なり。

三、檢算せよ。一度、計算したるのみにては、誤りなしとはいふべからず。されば、常に、檢算を行ふ習慣を作るを肝要とす。

本科の第廿二章以下には、凡て、最近各府縣立諸學校の入學試驗問題を列記したり。

目次

第一編　國語科

第一章　衣食住……一
第二章　文字の話……三
第三章　短句及び短文……八
第四章　食事の禮……一一
第五章　短句及び短文……一三
第六章　短句及び短文……一八
第七章　口語と文語と……二三
第八章　短句及び短文……二六
第九章　花の構造……三一
第十章　短句及び短文……三四
第十一章　都會と田舍……三九
第十二章　短句及び短文……四四
第十三章　短句及び短文……五〇
第十四章　保護鳥……五五
第十五章　短句及び短文……五八
第十六章　小野道風……六四
第十七章　短句及び短文……六六
第十八章　短句及び短文……七一
第十九章　我が國の氣候……七七
第廿章　短句及び短文……八〇
第廿一章　温泉……八六
第廿二章　短句及び短文……八九
第廿三章　航海の業……九五
第廿四章　短句及び短文……九七
第廿五章　書方……一〇一

○書取の答案……自一〇三　至一〇六

第二編　算術科

第一章……○一
第二章……○四
第三章……○九
第四章……○一三
第五章……○一六
第六章……○一八
第七章……○二六
第八章……○三二
第九章……○三六
第十章……○四二
第十一章……○四七
第十二章……○五一
第十三章……○五七
第十四章……○六一
第十五章……○六五
第十六章……○六九
第十七章……○七一
第十八章……○七五
第十九章……○八〇
第二十章……○八七
第廿一章……○九一
第廿二章……（最近各府縣立學校入學試驗問題其一）……○九七
第廿三章……（同上其二）……○一〇一
第廿四章……（同上其三）……○一〇八
第廿五章……（同上其四）……○一一一
第廿六章……（同其上五）……○一一七

附錄

入學受驗者に告……○一二一

（をはり）

中學校
實業學校
高等女學校

入學者試驗準備

中學教育會著

第一編　國語科

第一章　衣食住

人のこゝの世に生活するや、最も大切なるもの三あり。その一は食物にして、その二は衣服、その三は住居なり。

食物とは、米、味噌、野菜の類をいひ、これを賣るものは、商人なり。米屋、味噌屋、及び、八百屋などは、即ち、商人にして、世人のもとめに應じ、これ等の食物を供給するものなり。されど、これ等の品物は、皆、商人の手によりて、作

切……功
住……往
類……數
商……商
手……午
……牛

らるる物にあらずして、これをつくる者は農夫なり。農夫なくば、米穀、野菜の類をつくること能はず。商人なくば、その作物を購ひ求めがたし。また、衣服を作るべき木綿織、絹織、毛織物等を製造するものは、工人なり。住居の如きも、また、工人の作るところなり。されど、是等の原料は、すべて、農夫の手に成りて、商人より供給せしものとす。されば、この三つのものは、互に離るべからざる關係あり。

かくの如く、農工商の事業は、人の衣食住について、その根本となるものなり。この三業を總稱して、實業といふ。實業の進歩發達は、すなはち、人民の幸福を增長する所以なり。

物……者
穀物
織物
料……科

達を達と書くは誤

缺……欠

（久松義典）

○演習

一、左の片假名を漢字に改めよ。
ジューキョ、ヤホヤ、キョーキュー、シンポ、ゴーフク、ゾーチョー、

二、次の文字の讀方及び解釋を問ふ。
原料、關係、實業、進歩發達、

三、次の題にて文を作れ。
イ、衣服、
ロ、農夫、

第二章　文字の話

文字は、言語をあらはすに缺くべからざるものにして、現今我が國にて用ゐる文字に二類あり。その一を假名といひ、そ

の一を漢字といふ。假名は、我が國の文字にして、漢字は、支那の文字なるを借りて用ゐたるものなり。汝は假名を正しく書き得るか。假名は字畫も少く、かつ我が國の言語は、假名のみにて何事をも記し得らるるものなれば、汝等は、よくこれを習熟しおくべし。

假名の數は、すべて四十七ありて、その體に、片假名、平假名の二樣あり。今左にこれを示さん。

（片假名、五十音）

ア　イ　ウ　エ　オ
カ　キ　ク　ケ　コ
サ　シ　ス　セ　ソ

言語　言葉
熟……塾
……熟

○五十音を書くには、各行の文字を、そろへて正しく記すべし。

タ　チ　ツ　テ　ト
ナ　ニ　ヌ　ネ　ノ
ハ　ヒ　フ　ヘ　ホ
マ　ミ　ム　メ　モ
ヤ　イ　ユ　エ　ヨ
ラ　リ　ル　レ　ロ
ワ　ヰ　ウ　ヱ　ヲ

（平假名、五十音）

あ　い　う　え　お
か　き　く　け　こ
さ　し　す　せ　そ

たちつて
なにぬねの
はひふへほ
やいゆえよ
らりるれろ
わゐうゑを

漢字はその數、非常に多けれども、普通に用ゐらるるものは、三千ばかりなりといふ。漢字は、偏（へん）、旁（つくり）、冠（かむり）、沓（くつ）等より成る、汝はその名稱を學びしことあるか。松の字の偏は木にして。旁は公なり。また冠とは、笛字の竹、空字の穴の類にして、沓とは、意の字心、責字の貝の類をいふ。すべて文字を書くには、その一點一畫にも、深く注意すべし。手紙などをおろそかに書きて、間違を生ぜしは、しばしば聞く所なり。又汝は漢字の音（おん）と訓（くん）との區別を知れるか。東西南北の文字、を、トー、ザイ、ナン、ボクと讀むは音にして、ヒガシ、ニシ、ミナミ、キタとよむは訓なり。

冠……寇（こう）

間……問

拗音
チャ（茶）
シャ（馬車）
促音
ラッパ（喇叭）
キッテ（切手）

○演習

一、左の文字の構造（偏旁冠沓）をいへ。

　桜、苗、仙、宇。　露、思、

二、木偏山偏の字、各五つを記せ。

三、拗音、促音の語、各五つを片假名にて記せ。

四、左の題にて作文せよ。

　學問

第三章　短句及び短文

甲、講讀

一、左の綴りを讀め

ズイイ、セツユ、ゴカイ、カヘイ、ドクリツコク、ハクブツカン、テンモンダイ、ホラアナ、ホノホ、

二、左の文を解釋し、――線を附したる漢字には、讀方を付けよ。

1、昨日、山田君を訪問せしに、山田君はわれを丁寧に待遇して、秘藏の書畫及び彫刻物などを見せたり。

2、彼はあまねく曆學者を訪問して、その奥儀を極めたり。

3、新潟は越後國にありて、北海の要津なり。市街は、信濃川の河口に臨み、人口、凡そ五萬餘、富豪、軒をつらね、市内、甚だ殷賑なり。

4、石炭は太古の植物の、地中に埋沒して、化成したるものなり。その性、はなはだ燃えやすく、且つ火力強くして、薪炭などの及ぶ所にあらず。故にその効用、極めて大なり。

5、絹布は美しくして光あり、輕軟にして體にかなふ。

二、左の字句の讀方及び解釋を問ふ

生育、崇敬、保護色、警戒色、豫報、警報、悅服、飽食暖衣、

乙、書取

待……侍（はべる）
曆……歷
潟……瀉（しやはく）
甚だ……頗る
埋……理
性……姓
効……巧（たくみ）
體ハ略シテ体ト書ク
護……獲（かく）
悅……說（せつ）

1、左の假名を、漢字に改めよ。

カンゲイ、ダンタイ、カンケイ、ヤサイ、ショーニン、イシドーロー、

2、左の熟字の讀方を平假名にて記せ。

皇祖、分泌、境内、區域、里親、不屆者、平癒、沐浴、

丙、綴方

一、左の文の○所に漢字を、△所に假名を入れよ。

イ、まことに、今日の暑さ△、○○に存じまする。さぞ、堪△難△入らせられ△△△。

ロ、事物を○○するに就きて、○△注意すべきは、時○を惜む△△なり。

域……城

第四章　食事の禮

食事の時には、一同着席し、上長の者、箸を取るを見て、一禮し、又は戴きますといひて箸を取るべし。

食事は急ぐべからず。徐徐に心地よく談話などして食ふべし。急がば消化を害す、心地惡しく食ひても亦同じ。

口中に食物を含みながら談話すべからず。咳嗽など出づる時には、堅く口に手をあつべし。

食物の味よからずとも、之を口に言ふべからず。不潔の物、椀、皿の中に入り居ても、その儘になし置くべく、之を口に出だすべからず。

食事中、口喉等にて大なる音を出だし、又は食器觸れ合ひて、

戴……載

徐……除

化……北

堅……賢

皿……血

汁……汗（かん）（あせ）
傳……傅
全……金

音を立つることなどあるべからず。

人が過ちて汁を覆（くつが）へしなどすることありとも、これを笑ひなどすべからず。人の過ちは注意せぬをよしとす。もし自己に近く坐する者、過ちをなす時は、其の手傳をなすべし。

多數の人、會し食する時には、己一人終りたりとて、直に座を立つべからず。談話などして全體の終るを待ち、一同に禮して立つをよしとす。（山本良吉）

○演　習

一、次の文字の音及び意味の差異を問ふ。
過―誤、　坐―座、　小―少、　沒―歿、

二、略字とは如何なるものを云ふか。
「答」　禮を礼、畫を画と書く類を云ふ。

次の文字の畧字を記せ。
假、　圓、　區、　學、　關、　體、

三、次の文字と同じ訓の文字を擧げよ。
亦、　立つ、　過ち、

四、次の文字の區別を、よく記憶しおくべし
己（キ、おのれ、コ、わたくし）　自己（十干の一）　つちのと
已　イ、すでに
巳　シ、み（十二支の一）

五、前に讀みたる「食事の禮」の文を談話體の文に改めよ。

六、左の題にて、文を作れ。
イ、食後の心得、
ロ、運動

第五章　短句及び短文

甲、講讀

一、左の文の讀方及び大意、並に附線の字句の解釋を問ふ。

1、人は學問が肝要なり。時計も巻かざれば、鳴らざるが如く、人も學ぶにあらざれば、智と德とをはたらかしむること能はず。

2、凡て課業は、自宅に於て、豫修しおくべし。豫修足らざれば、學校にて、教師の授業を受くるも、十分に記憶するを得難きものなり。

3、馬は早しとて、朝しばし走りてやまんに、いかでか、牛の終日ありかんに及ぶべき。

4、近來衞生の學、漸く進み、土地の効力を信ずることも漸く深くなりて、須磨に轉地療養をなすもの日に多く

○修業
憶……臆

なれり。

5、貴兄には、先日、小學全科御卒業の由、全く平素御勉強の結果、相顯はれ候儀と存じ奉り候、

6、農工の事につけても、繪畫、彫刻の道につけても、すべて我が學淺ければ、その趣味を感ずることも、亦淺きものなり。

7、艱難は、汝を玉にす。

8、青年再び來らず、一日再び晨なり難し、時に及んで勉勵すべし、歳月人を待たず。

○平生
趣……赴（おもむく）
運……運

二、左の字句の讀方及び解釋を問ふ。

共同、　構造、　攻守、　皇運、　足場、　變態、

殼……穀

地殼、鑄型、會葬、劇場、體の後端、

乙、書取

1、左の平假名を漢字に改めよ。

けしき、つみくさ、さたうきび、じぜん、あんない、こがね、りょだん、ひりょー、

2、左の附線の文字を漢字に改めよ。

イ、しょくぶつをさいばいす、

ロ、ぶっぴんのせいとん、

ハ、にはとりをかったり、たきぎをとったり、

ニ、人はつねにゑいせいを重んじて、しんたいいふくじゅーきょをせいけつにすべし

遺……遺（けん）
網……綱（つかはす）（こう）
蜜……密（つな）
始……初
嘉……喜

○蒸氣船といふ時には、氣を用ゐ、汽船の時には汽を用ゐる

3 左の文字を、諳書（あんしょ）し得るまで練習せよ。

合戰、遺族、袴の腰、武運、網、蚯蚓、前肢、蜜蜂、

乙、綴方

一、左の口語文を、文語に改めよ。

1、日本の人が、始めて蒸氣船といふものを見たのは嘉永六年、航海を學び始めたのは安政二年のことで、長崎で和蘭人から傳習したのである　さてその修業が終って、外國に船を乗り出さうといふことを決したのは、安政六年の冬、即ち目に蒸氣船を見てから足掛け七年目、航海術の傳習を始めてから五年目である。

2、寒むかった冬も去ってやうやうあたたかになった。

3、庭の梅も二つ三つさきかけた。

二、左の文中○の所に漢字を、△の所に假名を入れよ。

1、君は臣を○すること○△○△、○は君を○ふこと父○の如し。

2、身躰○○にして、内地に居り△○△△氣分常に愉○な△ば、御安心下されたく候。

3、當地の暖氣は、日中八十二三度にて單衣一○△△宜し、但、夜に○りては、涼風○△、○に○○を覺え候。

第六章　短句及び短文

甲、講讀

一、左の字句の讀方及び解釋を問ふ。

宜……宣（せん）

薄……簿

涙……泣

海藻、千尋、五百重、天然痘、姑、礎、棟、派出、廢物利用、

二、左の文の讀方及び附線の字句の解釋をとふ。

1、高山の上は、空氣稀薄なるを以て、呼吸も苦しく、どーきもはげし。

2、伊勢神宮は、八咫の御鏡を御神體として、天照大神をまつりたてまつれる御社なり。

3、何事のおはしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる

4、代代の天皇の崇敬したまふは、いふに及ばず。

5、「栴檀は、二葉より、かうばし」といふ諺あり。

炭……灰（かい）（はひ）
少……小

6、正行は、父の遺言、母の教訓が、身に、しみじみと、しみわたった。

7、水は方圓の器にしたがひ、人は善惡の友による。

8、凡そ、國家の貧富、强弱は、商工業の盛衰を以て知るべく、商工業の盛衰は、石炭を消費することの多少によりて知るを得べし。

三、左の綴りを讀め

キンケンチョチク、　ランジュホーショー、
ハクシキタサイ、　チョーテイ、
ほーらいきゃー、　てんしゃかく、

乙、書取

腕……椀

1、左の假名を、漢字に改めよ

こだいふーのけんちく、　ながれるなみだ、
うちじに、　ろーそく、　こーやく、

2　左の熟字の讀方を、片假名にて書け。

兵糧、親切、線路、機關手、遺言、明礬（みょーばん）、脚袢、天井（じょー）

3　左の文字を、よく書きて覺えよ。

小腕、密接、參宮、拜謁、歸って、泣き倒れた、お役、

丙、綴方

一、左の二文を、一文とせよ。

山は高し。……海は深し。
梅開く。……鶯啼く。
花は紅なり……柳は綠なり。
螟虫は害虫なり　蜻蛉は益虫なり。
太郎は字を書く。……次郎は本を讀む。
牛は田を耕す。……牛は車を引く。
神戸へは行けり。……大阪へは未だ行かず。

二、左の題にて文を作れ。

神武天皇祭（四月三日）
楠木正成

第七章　口語と文語と

山は高く、海は深し。
梅開きて、鶯啼く。
花は紅にして、柳は綠なり

一、花が咲く。
花咲く。（開く）

二、花が咲いた。
花咲きたり。

三、花が咲かう。
花咲かん。

四、花が咲かぬ。
花咲かず。

五、春にはなったが、まだ寒い。
春になりたれども、猶寒し。

鳥が鳴く。
鳥鳴く。

鳥が鳴いた。
鳥鳴きたり。

學校に行かう。
學校に行かん。

學校に行かぬ。
學校に行かず。

晩夕

六、梅が咲いたら、花見に行かう。
梅咲かば、花見に行かん。

七、某公園の藤は、まだ咲くまい。
某公園の藤は、未だ咲くまじ。

八、庭の櫻は、はや散った。
庭の櫻は、既に散りたり。(散りぬ)

九、天氣になりました。
天氣に相成り候。

一〇、今晩おひまであったら、御出で下さい。
今晩御暇に候はば、御出で下されたく候。

字を寫す
家を移す

一一、私は今度、中學校へ入學願書を出しました。
私は今度、中學校へ入學願書差し出し申し候。

右に示したるが如く、口語は、少しくこれを改むれば、文語となるなり。文語の體に普通文と書翰文との二樣あれども、大體においては、相によりたる所多し。諸子は、常に口語を文語に、文語を口語にうつし直すことをつとむべし。

○演習

一、左の字句の讀方を筆答せよ。
兵庫、兵役、家來、家族、雌蜂、繭、奢リ、飼フ、

二、左の語と反對の語を問ふ。
寒し、行く、散る、下る、出る、

三、左の口語を文語に改めよ。

國民は、納稅と兵役とを、名譽の義務と心得て、すすんで、これに服する覺悟がなくてはなりません。

四、 左の文章を口語文に改めよ。

四月三日、午前六時過ぐる頃、新橋より、汽車に乘りて出發す。おりしも春のことなれば、品川、大森の海面かすみ渡りて、安房、上總の山山も見えず。神奈川、程が谷、など、うち過ぎて、はやくも大船の停車場につきぬ。

第八章　短句及び短文

甲、講讀

一、 左の綴りを讀め。

1、はまきちさんは、おっつけかへってきましよー。

2、じゅーきは、ぐんじんのたましひであります。

3、ぷゆーひとにすぐれ、ゆみのめいじんなりき。

4、アイヌハ、ホッタテコヤノヨーナイヘニ、スマッテヲル。

5、ユーシューカンニハ、ココンノベイキナドガチンレツシテアル。

二、 左の讀方を、片假名にて記せ。

大國主命、風通し、摘草、事變、藥劑室、殘念、愉快、美麗、

三、 左の字句の讀方と解釋とを問ふ。

農作物、餓死、行儀、風俗、纖維、名高い難所である、臭氣、旗のてがらは國のほまれ、

四、 次の文の讀方及び全文の大意を問ふ、——線の所の字句

頃……頂

義……儀
勤勉

の解釋をも記せ。

1、己より弱い者を苦しめるものは卑怯であります。

2、水戸の義公は、御隱居の後、太田の奥、西山といふ處に住まはれたれば、世上にては、西山公と申すなり。

3、如何なる業務に就くとも、常に全力をつくして、忠實に勤めざるべからず。

4、「すこやかなる精神は、すこやかなる身體に宿る」と、うたひしローマの國民は、今より二千數百年の前において、盛に水浴を行ひきと。

5、當地に名高き、某所の櫻は、はやほころびそめ候、この樣子にては、さだめし次の日曜日は見頃ならむと

存じ候。

乙、書取

1、左の文中、附線の假名を漢字になほせ。

イ、ゾーノハナハ、ナガイ、

ロ、ギューニクニハ、ジョーブンガアル、

ハ、ヨアケゴロテキガキタ、

ニ、スイライテイデセメタ、

2、左の文字の讀方を、平假名にて書け。

天長節、氷山、直徑、術科、屏風、旅團、輜重兵、

三位、源氏物語五十四帖、

3、左の文字を諳書し得るまで習へ。

徽……徵

水
氷　氷
永

鑛物、顯微鏡、眼鏡、鑄型、歯、猛獸、寶、防禦、

4、左の文字に似たる他の文字を、知れる限り書け。

水……、大……、氏……、科……、体……、

「注意」似たる文字を、書くには、上の欄に記せる例にならひ、さらに多く考へ出すをよしとす。

丙、綴方

1、日記の一例（口語文）

四月一日　朝少し雨が降ったが、のち晴れた。午後友人が二三人尋ねて來た。

同　二日　いよいよ試験の當日だから、いそいで中學校にいった。試験は午前九時から始まって、午後三時に終った。學科は國語と算術との二科で、思ったよりは、やすかった。

同　三日　天氣もよく、祭日でもあるから、九時過ぎから、青木君と一しょに、公園に散歩した。東京の叔父が送った手紙と寫眞とが屆いた。

同　四日　晴、今日は躰格檢査があるので登校した。躰格の方は合格したが、學科の成績は、どーであろーか。

2、右を文語体の文に改めよ。

3、入學試驗に合格せしことを叔父に報ずる文。

第九章　花の構造

四時のをりに、人の目を樂ましめ、心を慰むる草木の花は、その種子を結ばんために開くものなり。さて、その構造には單純なるも、複雜なるもありて、一樣ならず。盡にも寫しがたき匂ある花びらを瓣といふ。瓣の數に種種ありて、多きは三四十片に及び、少きはその十分の一にも足らず。皆輪形をなして中心を圍みたり。これを名づけて、輪とも、花冠ともいふなり。

花冠を圍める綠色の片は、即ち、蕾める時に花瓣を包めるものにて、これを萼といひ、花の內部にありて、黃色の絲狀をなせるものを蕊と稱ふ。蕊の中心に位せるを雌蕊といひ、雌蕊を圍めるを雄蕊といふ。雄蕊の尖端には、小きふくろの如きものあり。これを葯といふ。葯には、花粉を貯へ持てり。雌蕊の末端を柱頭といひ、本の少しくふくれたる部分を子房といふ。花粉の作用によりて、種子をここに結ぶなり。

草木は、かかる構造作用によりて、花は子となり、子は種となりて繁殖するなり。實に靈妙なるは、造化の功用なり。

（博物叢說）

複……復
匂　香
瓣……辨
綠……緣（ふち）
絲　糸
末……末
作用（さよう）
作法（さほう）
作文（さぶん）

○演　習

一、チューといふ音の字を、五つ擧げよ。

二、草冠（艹）の文字を、十字記せ。

三、植物の種子は、如何にして分布せらるるか。

四、左の文字の用法を、知れる限り記せ。

子、　用、　分、　色、　作、　造、

五、左の文字と反對の意味の文字を問ふ。

末、　樂む、　開く、　單、　繁、　小、

六、左の題にて、作文せよ。

イ、櫻、

ロ、春の日某山に遊ぶ、

ハ、花見に友を誘ふ文、

第十章　短句及び短文

甲、讀方

一、左の綴りを讀め。

トーショーグー、チューグーシ、ショーチ、

けっこーそーしょく、しゅてんぎょくろー、ちょーこく、

ジュンカン、ヒョーバン、ピャクコタイ、

おーむね、ぎょーりょーをいとなむ、

垣……桓　牧……枚　弊……幣　吸……汲　陳……陣

二、左の漢字の讀方を片假名にて書け。

分封、適當、紡績、石垣、周圍、雜草、附着、牧畜、

三、左の字句の讀方、及び解釋を問ふ。

弊風、未曾有の事、連絡、脅迫、怜悧、配所の月、

虛禮、歸朝、噴火口、要路、安坐、堅固、慈愛、呼吸、

幣帛、陳列、

四、左の文の讀方および全體の意味を問ふ。但し一線の字句は、特に解釋せよ。

1、稅所敦子は、才學もすぐれ、その婦德も高かりければ、人人「古の紫式部に、よくもにたるかな。」といひあひたり。

○淑德

紫……柴

座……坐

波
濤

2、要害な地には、要塞をまうけるか、警備隊を配置するかしてある。

3、まづは、近況御報知まで、かくのごとくに御座候。敬具。

4、奈良は、はなはだ、盛なる都なりしが、桓武天皇の都を山城に移したまひしより、しだいに、さびれゆきたり。

5、社殿は壯麗にして、その廻廊には、無數の金燈籠をつりたり。

6、幸運が常に、勤勉なる人の側に傍ふこと、恰も、順風穩波の航海に巧みなるものに、隨ふが如し。

7、目新しき動植物又は鑛物等を觀ては、その形狀性質をわきまへ、山海の形勢を觀ては、その地の氣候風土などを考ふべし。

士……士
考……孝
刀……刀

8、白刃ヲ提ゲテ、强右衛門ヲ、ツレ行キタリ。

9、鯨は、好んで遠洋に浮ぶあり、近海に泳ぐあり、暖地を愛するあり、寒地にすめるありて、その種類、一樣ならず。

乙、書取

1、左の漢字を平假名に改めよ。

蜜蠟、雌雄、働蜂、鬚、佛閣、蛹、蛾、塊、

2、左の平假名を、漢字に改めよ。

はへとくも、さるさはのいは、

山
岩岳峰崗

家
家業
家屋
漁家

いくすぢカノたていと、かご、

3、左の字句を、諳書し得るまで習へ。

泥土、地層、壓力、粘板岩、炭酸、裝飾、洗濯、花崗岩、

4、左の文字を、或は偏（へん）とし、或は傍（つくり）とし、或は冠（かむり）とし、或は沓（くつ）として、別の文字を作れ。但し成るべく多く作るをよしとす。

山、川、日、月、大、主、生、金、雨、鳥、

5、左の文字を用ゐる、熟語を示せ。

家、住、美、近、天、德、無、力、白、地、

丙、綴方

1、左の題にて作文せよ。

一、雞、

二、病氣見舞の文、

（受信人は友人にて久しく風邪にて、學校を缺席せるもの）

第十一章、都會と田舍

都會と田舍といづれが住みよかるべきか。この問に對しての答は、恐らく人によりて異るべし。

平生田舍にのみ住める人は、たまたま大都會に立ち出でなば、繁華と便利とに驚きて、或はいつまでもここに居つきたしと思ふべく、都にのみ住める人は、あたかも其の反對に或は田舍の長閑けさを羨（うらや）むべし。人はともすれば、餘所（よそ）の境遇を羨む

遇……過

ものなり。

電……雷（らい かみなり）

げにや都會は繁華なり。街路は四通八達し、電信線は蜘蛛の巢の如く、大厦高樓は、鱗次櫛比す。夜も電燈の光、晝をあざむき、車馬絡繹として、行人たゆることなし。

便……使

げにや都會は便利なり。電信や、電話や、郵便や、その送達速かなれば、またたくひまに、數十里の外と通信すべし。汽車あり、人力車あり、鐵道馬車あり。運輸、交通の便、そなはらざるなし。官廳あり、公園あり、新聞社あり、百般の商店こと〴〵くあり。諸（もろ〳〵）の實用、諸の娯樂供給せられざるはなし。病院あり、劇場あり、會社あり、銀行あり、學校あり、要するに、都はなはでやかなり、花やかなり、娯樂多し。都會

兵庫縣廳。
肥料會社。
貯蓄銀行。
朝日新聞社。

の生活を人の羨むも宜なり。されどまた、長く住めば、都會の生活には、苦勞多く、不愉快多し。物價貴ければ出費多く、交際繁ければ、萬事うるさきこと多し。世間は年中いそがしく、さわがしく、街路は朝に晩に雜沓し、砂、ほこり、烟の如く立ちまふ。空氣の不潔なること甚し。總して、傳染病などの流行は、家屋稠密の地にはじまる。都會が衞生上によろしからざるは明なり。ましてや、火災などの害も都會に多かるをや。都會生活は危險なりといふべし。

○災害

爽……爽

田舍には都會の如き繁華もなく、また都會の如き便利もなし。されど、其の生活の心安さと、其の山水の清き眺めと、其の人情の淳朴と、其の空氣の清爽とは、都會に求め難きたまも

のなり。彼の春の花、わらび取り、秋のもみぢ、たけがり、夏の涼、螢がり、冬の雪けしきさへも、都會の人の深くうらやむ樂ぞかし。

かれの便利にかふるに、これの心安さあり。いづれをまされりとも定めがたし。はでなる娛樂こそ田舍住居にとぼしけれ。衞生上其の他の危險なきは、其の失をつぐなひて、餘りあるべし。

されど都には、たえず文明の進歩あり。學問、藝術をはじめ、文明の利器、機關は、すべてそこにあつまれり。田舍は全くこれに反す。知見を廣め、技能をみがかんと欲するもの、又は、大なる事業に從はんと欲する者は、到底、田舍にのみとどまること能はざるべし。この點は、都を優れりとす。

要するに、都會は修業の地なり。事業の地なり。安住靜慮の地としては、田舍のかた、はるかに優れり。（坪内雄藏）

○演　習

一、左の文字の音と訓とを示せ。

省、到、住、場、行、優、生、清、繁、驚、危、

二、左の文中誤字あらば、これを正せ。

されど、その主浩の心安さと、其の山水の清き眺めと、その人清の淳朴と、その空氣の清爽とは、都會に求め難きたまものなり。

三、左の——の所に、適當なる形容の詞を入れよ。

——水
——家
——傳染病
——夏
——空氣
——樂

かしこき人。
すずしき秋
赤き糸。

四、次の題にて作文せよ。

イ、山家の樂、

ロ、書籍の購入を在京の友に頼む文、

ハ、展覽會の模樣を報知する文、

（受信人は田舍にある友人、展覽會の模樣を述べ、一度來遊せよ、百聞一見にしかず、益する所多かるべきをいひやるもの）

第十二章　短句及び短文

甲、講讀

一、次の綴りを讀め。

ヒヨドリゴエノナンジヨカラ、テキガセメコマウ。

らんじゃほーしょーを、さづけたまへり。

シャショーガハシル。

こんちゅーの中には、ちょーちょのよーに、おもしろさう

穀……穀

に、まひをまふものもあり。

二、左の漢字の讀方を、平假名にて記せ。

嫩草山、芝生、唐招提寺、金堂、手段、烹殺、夢、乘客、

三、左の字句の讀方と、意味とを問ふ。

親切の報（むくい）。景色畵の如し。

この親子は、われわれの命の親だ。

笑ひながら。順序。

四、左の文の讀方と全文の意味とを問ふ。但し一線の所は、特に解釋せよ。

イ、地殼には、柔い土もあり、ばらばらした砂もあり、堅い岩もある。しかし學問上では、すべてこれらを岩石

臨……望
船……舟

といふ。

ロ、長石は燒物をこしらへる時、石英は、がらすをこしらへる時に、ぜひ、なくてはならんものである。

ハ、旅行して、他鄉に遊び、名勝の地、山水の佳境に臨むは、人生の一大樂事なり。

ニ、なかば、もやにかくれたる島島の間を、多くの漁船の、艫の音勇ましく、こぎ出づる樣は、げに畫も及び難きしけきなり。

ホ、日傘さしたる少女の、濱邊に貝を拾へる、麥藁帽子かぶりた老人の柳のかげにて、魚をつれる、中學生らしき人の水泳ぜる、漁夫の網ひける、松の靑き、砂の白き、まことに面白きこと限りなく、ながくここに住みたき心地せり。

ヘ、さみしき折から、鮮明なる寫眞御惠み下され、誠に有り難く、家族うちこぞりて拜見いたし候。

ト、頃日は、田植にて、農家はいづれも忙はしく暮し居り候。

チ、一身に、多くの富をつみて、世間に羨みあがめらるとも、その富を作りし道正しからずば、その人は不義の人なり。

乙、書取

一、次の假名を漢字に書きかへよ。

暮
晩

簸と書くは誤、脩と書くは誤、

オホヤマゲンスヰ、　インサツブツ、
ジョービカンダイ、　テンノーヘイカ、
チョチクギンコー、　ジュクレン、
ショーノー、　ショージ、

二、左の字句を、諳書し得るまで習へ。
甘蔗、樹林、竹藪、雛形、修繕增築、機關車、

三、左の片假名を、漢字に改めよ。
木像をチョーコクす、　バイバイ、
ユカイなる遊び、　兵士をシキす、
ムジンの富、　都のオモカゲ、

丙、綴方

復……腹
……複

雨具とは、傘下駄の類

一、左の口語を、書翰文に改めよ。
やうやう、お暖になりましたが、あなたには、おかはりは、ございませんか。わたくしは、ぶじでべんきよーいたしてをりますから、御安心くださいませ。

二、左の口語を、文語になほせ。
イ、一週間に一度ぐらゐづつ、復習會をすることにしようぢゃないか。
ロ、便利な鐵道を工夫した、スチブンソンのてがらは、まことに、たいしたものでは、ありませんか。

三、左の題にて、書翰文を作れ。
雨具（あまぐ）を返却する文、

第十三章　短句及び短文

甲、講讀

一、次の字句の讀方を、平假名にてしるせ。

暑中休暇、乘組の人、大砲掛、蝙蝠、蠅、龜、鼠、物陰、納稅、

二、左の文の讀方及び大意を問ふ。但し―印ある所は、特に解釋せよ。

1、代代の天皇、三種の神器を殿內におかれしといへども崇神天皇は、はゞかれあらんことを、おそれ、鏡、劍を大和の笠縫邑にうつさしめたまへり。

2、京都は、山水明瞞にして、その水質はよく染物に適

陰……陰
稅……祝
三種の神器は何何か、

州……洲
眼目

すといふ。

3、神州男兒は多けれど、男兒の中の眞男兒、世界に示すかがみとは、廣瀨中佐がことならん。

4、蒸氣機關の發明せられざる前には、船を運轉するには、只二つの方法あるのみなりき。卽ち帆をかけて走ると、櫂をもってこぐとなり。

5、太平洋および印度洋の熱帶中には珊瑚島といひて、かたち極めて、奇異なる島あり。その島の周圍には、椰子の類の樹木繁茂して、はなはだ絶景なりといふ。

6、明け行く海面を見渡せば、眼前に橫たはれる一島ありて、そこには、草木青青として、花を開き、鳥は

菓……果

雪……霜（そー）

さへづり、菓實は枝にみてり。

7、海岸のけしきほど面白きものはなし。松の青きかげより、白き帆の見ゆる、砂の上に網をほせる、沖の小島のかなたより漁船のかへり來る、いづれも繪のよーなり。

8、風雪の苦をへざれば、春にあはず。

乙、書取

一、左の假名を、漢字にかきかへよ。

ヤクソク、　フーゾク、　コツモツ、

レンラク、　サイバン、　セイホー、

ユニュー、

二、左の假名遣を、よく記憶せよ。

い……老イ、　報イ、　悔イ、

る……率ヰ、　用ヰ、

ひ……救ヒ、　行ヒ、　誘ヒ、

へ……堪へ、　云へ、　問へ、

え……絕エ、　消エ、　見エ、

ゑ……飢ヱ、　植ヱ、

三、假名に誤りの生じ易きは、左の諸字なり。

ハ……ワ

イ……ヰ……ヒ

ウ……フ……ユ

へ……エ……エ

ヲ……オ……ホ

四、左の文に假名の誤りあらば、正せ。

イ、かくの如き困難あに人の堪ゆべきことならんや。

ロ、たちまちもへ、たちまちきへたり。

ハ、老ヒテ悔フルモ、甲斐ナカラン。

丙、綴方

一、左の題にて、文を作れ。

卒業を祝ふ文、

（受信人は親戚の者、小學全科卒業と假定せよ）

祭禮に友を招く文、（受信人は友人、氏神祭に付午後二時、來宅を乞ふといふ意を述べよ）

畑　畠

捕……取

驚……警（けい）

第十四章　保護鳥

ちょっと見ると、雀などは、ごくいたづらな小鳥のよーであるが、どーして、大にわれわれの益（やく）に立ってゐる。雀が一羽で一週間にとってたべる小虫は三千匹以上だとのことである。してみると、雀はわれわれのために田畑の害虫を除く人足で、しかも賃錢（ちんせん）をとらない。先年アメリカの或る國で雀が害をするからとて、のこらず捕へてしまったことがある。その結果、害虫が非常に殖（ふ）えて、作物は云ふに及ばず、森や林の木までが、みな葉がなくなって、まるで、枯木（かれき）のよーになってしまった。そこで驚いて、ふたゝび、雀を他國からつれてきたと

云ふことである。雀とて、なかなか、あなどられぬ。

もっとも、雀は益にたつ代りに、又害もする。しかし、害は少しもせずに、害虫を除いて、われわれの耕作、殖林の助けをする鳥がおほくある。そー云ふ鳥は、むやみに捕へては、いかぬ、そこで、法律で捕へることをさしとめられてある。

つる、つばめ、こがら、ひがら、四十がら、五十がら、えがら、みそさざい、ほととぎす、三光鳥、かっこー、せきれい、ひたき、とび、よたか、みみづく、ふくろー等の二十二種は、年が年中捕へてはならぬ。又きじ、やまどり、むくどり、ひばり、ひよどり、もず、らいちょー、えぞやまどり、はと、うづら、しぎ、この十一種は、三月頃から十月頃までは、捕へてはならぬ。

かよーに法律で、捕へることと許さぬ鳥を保護鳥と名づける。

雀は保護鳥では無いが、これらの鳥にも劣らぬ手柄をする。この他、鳥では無いがわれわれの耕作を助けるものに、みみず、むぐらもち、などがある。又、蚊や蠅のよーな害虫を除くものに蛙、とんぼ、などがある。何れも、われわれの爲になる動物である。それをむやみに捕へたり、捕へて苦しめたり、苦しめて殺したりするのは、よろしく無いことてある。

（立憲國民讀本より）

○殖産

○演習

一、同じ假名を、二字以上重ねて記すときには、左の如く書くことを、記憶せよ。

ちゝ（父）　はゝ（母）　チヽ、　ハヽ、　すゞめ（雀）

同じ漢字を重ぬる時は、下の字を濁音に讀むこと多し。

利益、有益。殖産、利殖。損害、害毒。光陰、威光。殺生、製造、敎授、負債、

衰……哀（あい）（かなしむ）

同じ漢字のときには、左の如くに書くことあり。

日々（ひび）、所々（ところどころ）、人々、品々、時々（にちにち）

二、保護鳥の名の中には、同じ音を重ねて、記せるものあり、それを指摘（してき）せよ。

三、左の文字を用ゐて、熟語を作れ。

益、殖、害、光、殺、製、授、債、

四、保護鳥とは、如何なる鳥か。

五、左の題にて、文を作れ。

益虫

第十五章　短句及び短文

甲、讀方

一、左の語句に讀方と意義とを附せよ。

虐待、誤解、整頓、弊風、衰微、臨機應變、感佩の至に堪へず。

必……心

二、左の文意を、口語にて記せ。

「なにがしはたしかなる人なり、たのもしき人なり。この始末を托しても、必ず間違なからん、この仕事をまかせても、必ず成就するならん。」と、望をかけらるる人を稱して、信用ある人といふ。

三、左の文の讀方および意義を記せ。但し附線の字句は、特に解釋せよ。

1、決死隊を乘せた五せきの汽船と、驅逐隊、水雷艇隊、とは、かねて示し合せた處に落合って、いよいよ旅順の港口に近よったが、二月廿四日、午前三時三十分、霧は一面ぼーとたてこめて、しほ風さえて、

父……火
職……織
……識
候…侯爵
○絶妙
港……湊

物すごい時であった。

2、諸子は、今父母のもとにありて、學校に通ふ身なり。いまだ世上の困苦を知らず。されども他日それぞれの職業に從事するにあたりては、さらに幾多の困苦に出逢ふことを覺悟せざるべからず。

3、私の頃日參り居り候所は、生口島と申し、尾道より海上五六里の所に候、風景絶佳海水浴に適當の場所少なからず候、この夏休暇には、一度御來遊下され度、今より待ち居り候。

4、午前八時、岡山發の急行列車に乘りこみ、神戸にて下車し、湊川神社に參拜仕候、それより、居留地など

覽
見

出
○他○火
○世○

どを一覽し、電車にて大阪に入り、中ノ島の某旅舘に投宿仕候、今夕は、心齋橋筋の夜景を遊覽致し度くと存じ居り候。

5、櫻には、一重なるとあり。八重なるとあり。八重には、赤みを帶びたるもの、青みを帶びたるもの或は、香氣あるものなどありて、一樣ならず。その種類に、彼岸櫻、しだり櫻、糸櫻など種種あり。

乙、書取

一、左の文字の何れか二つづつを組み合せて、熟字を作れ。

出、物、拜、
世、火、帶、
間、時、見、

二、左の文字に、形の似たる文字を、知れるだけ書け。

土、　待、　太、　某、　悟、

三、左の片假名にて書ける所を、漢字に直せ。

(イ)、サケショーユルイを(ロ)、キショーダイや、ソクコージョは、クーキチューのゲンショーをシラベて、テンキヨホーや、ケイホーをハッするトコロなり、

必……心

四、左の文字を、よく書きて覺えよ。

棹、楫、破壞、捕獲、巡航、鎭守府、顎、筋肉、

丙、綴、方

一、左の文の○の所に漢字を、△の所に假名を入れよ。

小兒の飮○の量は、○人△比して、割合に多き△△なり。强○なる小兒には、なる△△十分に○食せ△△△て、よく遊戲運動△しむべし。

2、左の口語体の文を、書翰文体に直せ。

一、全快いたしませう。

二、醫師からも、登校のことを、許されました。

三、度度御見舞下さって、有りがたうございます。

四、お立ち寄りなさい。

五、寄って下さい。

六、御知らせ下さい。

七、御話の本は、まだ見たことはありません。

三、左の題にて文を作れ。

イ、運動器具を贈られし禮狀（男子）

ロ、花籌を贈られしを謝する文（女子）

第十六章　小野道風

小野道風は、本朝名譽の能書なり。その若かりしとき、しきりに書を學びしかと、思ふよーに進まざりしかば、ある日倦みて、後園に出でけるに、をりしも一匹の蛙、泉水のほとりなる柳の枝に跳び上らんとして、屈かざりけるが、次第次第に高く跳びて、後には終に之に取りつきたり。道風之を見て、始て藝はつとむるにあることを覺り、これより日日に學びて、やまざりしかば、遂に無雙の能書となりて、その名、今に傳はれり。

○能筆

覺悟

○演習

一、左の文字を用ゐて、熟語を作れ。

能、園、泉、高、藝、名、

二、左の文字の音と訓とを問ふ。

風、譽、進、雙、傳、柳、

三、左の文字の扁、旁を云へ。

後、蛙、跳、終、倦、始、

四、左の句に適當なる語を補ひて、完全なる短文を作れ。

……進みたり。

……能書なり。

五、左の題にて作文せよ。

イ、勉強、

ロ、友人の遊惰を戒むる文

（受信人は同窓の友、十數日學校缺席、無益の遊戲に耽る、一日も登校すべきことを勸む、）

第十七章

甲、讀方

短句及び短文

一、左の熟字の讀方と解釋とを問ふ。

威光、參詣、惡味、彩色、

イカガシタル鐵砲ノ音ニカ、突起、

光澤アル黃色、筋肉ト骨格、攻擊ヲ免ヌカル、

怜悧ナル性質、

二、左の文の讀方及び大意を問ふ。但し―印の所は、特に解釋せよ。

起……越

格を挌と書くは誤

冤を兎鬼と書くは誤

勅語

聖諭……諳

暗……○破損

具……具

滅……滅

健を建と書くは誤

究を、究と書くは誤

鳥……島

1、臣民各々其ノ業ヲ勤メテ、富國強兵ノ源ヲ開クベシ、トノ勅諭ヲ給ヒキ。

2、水雷艇ハ、雨、雪ナドノ降レル、霧ノ深キ日、又ハ暗夜ナドニ乘ジ、魚形水雷ヲ發射シテ、敵艦ヲ破壞スルモノナリ。

3、夜具、蒲團の如く、洗濯のまれなるものは、しばしば日に干し、風を通すべし。かくすれば、ただに保存をよくするのみならず、日光は病毒を消滅するをもって、健康上にも、大なる利益あり。

4、契沖と殆ど同時に荷田東麻呂出で、古書の研究、契沖と相上下せり。八歳の時、「稻荷山今日は小鳥のねを絕

えておとするものは谷川の水」と、よみし神童、即ちこれなり。

5、商業は、種種の物品を賣買して、己を利し、又他の用を辨ずる道なり。故に交通の便ある地は、商業繁昌し、不便の地は、商業進歩せず。

6、溫泉は、地の甚だ、深き處よりわき出づるものなれば、是に由りて、地中の深き處に、烈しき熱あることを知るべし。

7、時刻を守るは、人の務なり。信用を得るも、失ふも、時刻を守ると、守らざるとに在り。かゝれば、約束の時刻は、決して違ふことなきよー注意すべきなり。

賣……買　弁を辨の畧字とするは誤。

音（ねん）（いん）（ね）（おと）

失……矢
在……有
注……往

8、儉約ナラザレバ、財盡キ、家乏シクナリテ、父母ヲ養ヒ、人ニメグミ、禮義ヲ行ヒ、職分ヲツトムルトナラズ。

儉……險

乙、書取

一、左の假名を漢字に改めよ。

エンスイケイ、ワカメ、チューオーキショーダイ、センダクモノ、ダイクヨー、エンガン、

二、左の文字を用ゐて、熟語を作れ。

發、通、深、失、知、交、便、職、

三、左の字句を、諳書し得るまで習へ。

辯解、總堀、絶壁、歌濱、浮塵子、豌豆、蚕豆、

辯……辨　蚕（かひこ）

期……斯

油菜、蕎麥、煙草の煮汁、驅除、蕃殖期、爐、裏、溝、

丙、綴方

一、口語と書翰文との對照。

差上げます。
差上げ候。

おいでをまちます。
御出で待ち入り候。

參りませう。
參り申すべく候。

雨がふりますから。
雨降り候へば。

雨が降りますならば。
雨降り候はば。

雨がふりませう。
雨降り候はん。

二、書翰文中にて、常に誤らるるもの。

誤	正
成されまじく、……成さるまじく、	
下されまじく、……下さるまじく、	
成されべく、……成さるべく、	
下されべく、……下さるべく、	
存じられ、……存ぜられ、	

三、左の題にて、文を綴れ。

1、運動會を觀る。

2、轉居を知らす文。

（受信人は得意先、商用の都合にて移轉、相變らず愛顧を賴むといふ意を述べよ。）

第十八章　短句及短文

止……正（たし）（てい）
拍……柏

甲、講讀

一、左の字句の讀方と解釋を問ふ。

われなんぞあづからん、　禁止、　貿易、　身代、
無實の罪、　恢復、　白洲、

二、左の文の讀方及びその大意を問ふ。但し附線の字句は、特に解釋せよ。

1、白帆二三點、青松の間に隱見す。

2、山は峻秀にして、社殿は華麗、遊覽の客、年中絶ゆることなく、ことに春の花、秋の紅葉のころには、遊人甚だ多し。

3、舟歌勇ましく、艣拍子（ろひょーし）そろへて、引き歸るさまは、い

津……津（つん）
抵……低（てい）

○水勢
○噴火

はんかたなく面白し

4、臣民ハ法律ノ大要ヲ知ラザルベカラズ、法律ヲ知ラズトノ口實ヲ以テ、罰ヲノガルルコト能ハザルナリ。

5、富士山ハ巍然（ぎぜん）トシテ、東海ノ表ニ聳エ、直立一萬四千尺餘、四時雪ヲ戴（いただ）キテ、サナガラ白扇ノ倒ニカカレルガ如ク、山勢秀絶ナリ。

6、火山ハ高熱ノ熔岩（よーがん）、地殼ノ割目（わりめ）ヨリ噴出シテ、ウヅ高ク積（つも）リタルモノナリ。

7、電信よりも便利なるは、電話にして、今日にては、日本國中の大都會には、大抵（たいてい）、電話の架設せられざるはなく、身はたがひに數百里（り）に在りて、自在に談話を

交ふるを得るに至れり。

8、性質快活にして、諸事清潔を尚び、外人を遇するに親切にして、禮儀あるは、我が國民の美風なり。これ海外諸國の紳士、千里の浪路を遠しとせずして、來遊するもの、年年に多きを加ふる所以ならんか。

遇……過

罰を罸と書くは誤

三、左の文字の讀方の異なる點を答へよ。

雷——電、　決——快、　罪——罰、

使——便、　積——蹟、　儉——險、

霧——霧、　露——霜、　民——氏、

令——令、　吏——史、　銃——砲、

壞——讓、　斤——斤、　藤——籐、

苦——若、　沈——枕、　沿——治、

乙、書取

一、左の假名を漢字に改めよ。

ゲキヘン、ボーチョー、チャワン、ジュンカンウンドー、ヒョーバン、ダンガン、ミカタ、タイワンセイトー、

二、左の文を片假名文に改書せよ。

1、奉天を占領せり。

2、負傷者を看護す。

三、左の文字を用ゐて、熟字を作れ。

內、勇、安、村、林、協、悔、

〔注意〕上欄の例にならひ、更に多く作るべし。

內城　內地　內外

勇武　勇敢　勇士

安　村　林
安心　安樂　村費　村長　森林　林間

丙、綴方

一、左の文を文語体の文に改めよ。

1、世ノ中ニタッテ、シゴトヲ、ショートオモヘバ、智ト德トガヒツヨーデアルコトハ、イフマデモナイ、シカシ、イクラ智ヤ德ガアッテモ、カラダガヨワクテハヤクニタタヌ。

2、我ガ國ニ生レタ男子ハ、滿十七歳カラ四十歳迄ハ、國民兵ノヘイセキニアルノダカラ、國民皆兵ト云フノデアル。

二、左の題にて作文せよ。

1、己の最も嬉(うれし)く感じたること、（談話體にて書け）

2、注文品の不足を催促する文、（注文品着したるも、品數何々不足す、至急入用の品に付、あと直に發送を乞ふといふ意を述べよ）

邦(ほー)……國(こく)
陸……陸(へい)

第十九章　我が國の氣候

本邦(ほー)の大部は、溫帶中に在り、且つ、島國なるが故に全國概ね、寒暖中和を得たり。されども地形南北に長くして、北は寒帶に迫(せま)り、南は熱帶に入り、地勢變化に富み、位置大陸に近く、且つ、近海には、寒暖二種の海流通過するが故に、常に此等の影響(えいきょー)を被りて、各地の氣溫もとより同一ならず。かの北域なる北海道、樺太の如きは、夏季短く、冬季長くして寒風吹きすさみ、特にその近海の一部は、全く流氷にとざさ

○四季

紀……記（しるす）

亘……互

るゝことあり。之れに反して、南域なる臺灣の如きは、周歲溫暖にして、熱帶植物四時繁茂し、夏季すこぶる長し。

我が國は四面、海をめぐらし、高山甚だ多きが故に、雨雪量の多きこと溫帶地方中、まれに見る所なり。而してその最も、多きは臺灣の北東部、九州、四國、紀伊の南部及び飛彈地方等にして、最もすくなきは、瀨戶內海、信濃、北海道等なり。季節については、夏時は太平洋沿岸地方に多く、冬季は日本海沿岸地方に多し。これ全く風向に基くものなり。又每年六月頃には、梅雨と稱し、霖雨連日に亘り、天氣陰鬱にして、甚だ、不愉快を感ぜしむ。されど此の雨期は農業上、實に缺くべからざるものなり。九月の暴風期には、各地多く大雨を

○降雨

日（暖、暑、暗、晩、時、星、昔）

降らし洪水の慘害を被ること少からず。（日本新地理抄錄）

○演習

一、左に示す漢字、偏、冠の名稱を記憶せよ。

亻人偏（にんべん）　冂カ冠

扌手偏　子サンズ井

礻示偏（しめす）　衣偏（ころも）

二、左の偏、旁より成れる漢字を記し、かつ、その音と訓とを、知れる限り示せ。

アメカムリニツトム。

シロニシンニュー。

ノギヘンニクチ。

コロモヘンニカハ。

ウカムリニイタル。

三、左の文字に偏、冠、旁、沓、等を加へて、種々の文字とせよ。

日、寸、心、大、女、土、欠、

四、次の文字に似たる字を擧げよ。

爪、　沿、　旦、　此、　左、　稗、　辨、

五、左の題にて、作文せよ。

イ、春、

ロ、時候見舞の文、

第二十章　短句及び短文

甲、講讀

一、左の文字の讀方及び附線の熟字の解釋を問ふ。

味方、　最後、　熟蕃、　野蠻、

土床、　筒袖、　模様、　放逐、

陳列、　本營、　防禦、　組織、

炊事、　技藝、　證據、　委任、

爪（つめ）　瓜（うり）

逐……遂　營……榮　任……仕

分擔、　支辨、　推薦、　援軍、

二、左の文の讀方、全文の大意及び附線の文字の解釋を問ふ。

1、我が國より外國へ輸出するものは、生糸なり。この生糸は如何にして、生ずるかといふに、蠶といふ虫の生成物なり。

2、我ガ國ハ、昔ヨリ美術進歩シテ、能ク諸ノ工業品ニ及ベルヲ以テ、世界各國ノ人ハ、東洋ノ美術國ト稱スルニ至レリ。

3、農業ノ生活ハ、概シテ戸外的生活ナルヲ以テ、身体ヲ健全ナラシムル益アリ。

4、瓜の蔓には、茄子はならぬ。

○輸入

蠶は蠶の略、として用ゐる。

5、人は一代、名は末代。

6、赤十字社は、戰時にあたりて、敵味方を問はず、患者を救はんが爲に、設けられたるものなり。

7、己が衛生の不注意よりして、傳染病にかゝることあらんには、これが爲、公衆に迷惑を及ぼすこといかばかりぞ。

8、吾等は、よく法律を守りて、社會の秩序、公安を保持し、租稅を納めて、行政機關の運轉を便にし、ますます我が國の文明、富強を增進せざるべからず。

9、勝れし功は立てられずとも、敵をばさゝへ得ざらんや。或は、炊事をつかさどり、或は、負傷者を看護して、

○救助

○納稅

○傷……場

10、後三條天皇は、いたく藤原氏の權を抑へて、親ら政權をかゝげ執りたまひたり。

11、國家に事ある時は、驕奢を退け、儉約を守りて、國力の增進を勉むべし。

12、雪は消えても消え殘る、名は千歲の後までも。

13、内の樂をもとゝして、耳目を以て、外の樂を得る媒とせざれば、天地萬物の景色のうるはしきを感ずれば、その樂、限りなし。

14、父母や、我を生み、我を養ひ、我を長ぜしめ、我を敎ふ。これ無上の厚恩、何の日にかこれを忘れむ。

○奢侈

萬万

むん

敗……破（やぶ）

15. 世界の一大強國たる露西亞が、海陸の戰ともに大敗して、遂に媾和の條約を結ばざるべからざるに至りしは、如何に口惜しき事なりけん。

乙、書取

一、左の文中假名の文字を漢字にて、書け。

1、伊能忠敬人となり、セイチョクにして、セイリョク、シューにヒイでヨハヒ七十をこえ、ハクハツカタに被れども、そのキリョクのサカンなること、ショーソーの人の如くなりしといふ。

2、チャクシツにして、ギョーコーをモトめず。

3、ロバの足、チョクセツ國稅、ジチダンタイ、ショクム

貫……實

二、左の字句を書き習へ。

僞者、　貫く、　屍、　胴、

額、　顎、　寫眞、　專修、

裁縫、　制度、　課程、　浮薩子、

蛾、　嫁ぐ、　遼東半島、　藍綬褒章、

丙、綴方

一、左の文を、候文に直せ。

花サキ、鳥ウタウテ、イヘノソトデ、ウンドースルニ、

テキスルヨイシセツトナリマシタ。アナタハ、中學ニ、オハイリナサルト、イフコトデスガ、ワタクシモ、シガンヲ、イタシマシタ。ツキマシテハ、一ドオメニカヽッテ、オハナシイタシトーゾンジマス。ツギノニチヨービニマヰリマシテモ、オサシツカヘハ、アリマセンカ、ドーカオヘジクダサイ。

二、左の題にて文を作れ。

1、我が家庭、

2、借りたる書物を返す文、

第二十一章　溫泉

地中より、自然に湧き出づる水を、泉といふ。泉には、冷かなると熱きとあり。

泉の溫度、常の水に越ゆるを、溫泉といふ。泉の熱きは、水の地中にある時、地熱に溫められゝが故なり。隨うて、その湧き出づる處は、おほむね、火山に近し。

我が國の溫泉にて名高きは、相模の箱根、伊豆の熱海、上野の伊香保、草津、攝津の有馬、伊豫の道後等なり。その他の小溫泉は、枚擧に遑あらず。

溫泉には、味の鹹きものあれば、澁きもあり。色の濁りて、且つ、臭きもあり。その水分中に含める物質の同じからざるがためなり。所謂、物質とは、主として、鹽分、鐵分、硫黄分等をいふ。

越……起
隨……從
○著名
枚……牧

箱根の溫泉は、皆、清く澄みて、大概、臭なく、ほとんど、通常の白湯に異なることなけれど、蘆の湯には、臭氣あり。熱海のは鹹し。伊香保、有馬の溫泉の如きは、色濁りて、白布を浸せば、これを茶褐色に染む。けだしその鹹きものは、水分中に鹽分を含み、濁りて臭きものは、硫黄分を含めるなり。白布を茶褐色に染むるは、鐵分を含めるがためなり。溫泉の人間の健康に裨益するは、その含有せる物質が、人身に効驗あるが故のみにあらず、地の高燥、境の閑靜、空氣の清潔など、皆、與りて力あるなり（坪内雄藏）

○演習

一、左の語に適當なる形容の詞を加へよ。

……泉、……味、……境、

二、在と有との區別をとふ。

三、左の文字の音と訓とを問ふ。

冷、温、臭、曠、分、染、含、靜、力、空、驗、根、

四、左の題にて作文せよ。

イ、火山、

ロ、旅行の業、

第二十二章　短句及び短文讀

甲、講讀

一、左の語句を解釋し、漢字には讀み假名をつけよ。

巧なる形容、少しも忘らし、都の面影、狡猾、版圖、同盟、萬里觀光の客、匹敵、嗜好、巡航船、驛路、

稗……稗（ひえ）

宮城は東京に在り、東京に宮城有り。

狡……校

敵……適

障礙を排す、　壓倒、　琢磨、　卓拔、　隱見自在、
公平、　入營、　征討、

二、左の文の讀方及び大意を問ふ。

1、臺灣は、もと清國の領分なりしが、明治二十七八年の戰役によりて、我が領地となりたるものなるが、彼の地には、生蕃ありて、今、なほ、未開のまゝに、殺伐の風あり。

2、東大寺の正倉院にをさまれる、聖武天皇の御遺物は、世に稀れなる國寶なり。今より千百餘年前の舊き物にして、歷史上は更なり。工藝美術の參考となるべきもの少なからず。

○領土
伐……代
○藝術

3、一体に勤勉の美風を奬勵すれば、儉約も亦自然に行はれ、勤儉貯蓄の實、擧るべし。

4、人には、怜悧なるも、痴鈍なるもあれど、怜悧なりとて、自ら怠るべからず、痴鈍なりとて自ら棄つべからず。

5、朋友に交はるには、愛情の外に、恭敬の念を忘るべからず。

6、蜜蜂の巢の各房は、六角の筒の如く、奥狹くして、口廣し、巢の質は、蠟にして、蜂は其の腹より、蠟を分泌しつゝ、巢を建築す。

7、廣く人間世界を見渡せば、上下貴賤の別あること、雲泥

又……亦
擧る　上る
棄……捨
忘……妄
○愛敬
○社界

祖……租
遵隨從
侮……悔
狹……峽
騰……勝

と泥との相違あるに、似たるは何ぞや。

8、我が國は、古來、皇祖皇宗の遺訓に遵ひ、忠孝を以て、教育の大本と定め、未だ曾て外國の侮を受けず。

9、我が國人の渡韓するものは、先づ、家屋の狹小なると、道路の不潔なるとに驚かざるはなし。

10、需用多くして、供給少き時は、物價騰貴し、供給大にして、需用小なる時は、物價下落す。

乙、書取

一、左の片假名を漢字に改めよ。

物品のバイバイ、

テンジョームキュー、

ソゼイをヲサむ、

イデヒをブンタンす、

ヨサンを定む、

シコーに適す、

究……窮

二、左の文字を、練習せよ。

鞏固、誤解、腐敗、恭謙、
億兆、精華、淵源、宏遠、
緩急、啓發、天壤、無窮、
扶翼、顯彰、服膺、肥沃、
樞密院、統治權、協贊、整頓、

三、左の類字を、よく覺えおけ。

且（カツ）延（エン）延引
旦（タン）廷（テイ）朝廷

帥（スル）元帥　熱（ネツ）熱帶
師（シ）敎師　熟（ジュクシ）成熟

思（オモフ）　候（時候）　使（使役）　哀（カナシム）
恩（厚恩）　侯（侯爵）　便（便利）　衰（オトロフ）

丙、綴方

一、左の題にて文を作れ。

1、忍耐

2、卒業後舊師に呈する文、

二、左の口語を書翰文に直せ。

1、永らく御無沙汰を、いたして居りますのを御ゆるし下さいませ。

2、野山のけしきも、春らしうなりました、次の日曜日に、東山のあたりへ御散歩は、どーてすか。

3、此間の入學試驗に、御合格なされたそーで、おめでたうぞんじます。學生寶典一部およろこびのしるしに差上げます。どーかおうけとり下さい。

4、明日は、中學校で大運動會が出來るといふことを承りました、おひまならば、午後から、御一しょに、參りたう存じます。

第二十三章　航海の業

航海の業は、殊に、國民の膽勇を增し、進取の力を養ふものなれば、少壯の者は、進みて、この業につき、船の建造法よりして、その使用法にも熟し、常に世界の各國を巡航して、其の形勢、人情を察し、治世にありては、これを以て、國の

○先日　殊……特　察……際

乱は亂の略

○富國强兵

○文豪

乏……之

渉……渡

富源を助け、亂世にありては、これを以て、國威を張らんことを務むべし。

西洋諸國が、今日の富强を致したるは多くは、航海の業に基けること、衆人の知る所なり。本邦、舊來の富豪者たる、農、工、商家は、大概、祖先の遺産を以て、今日の富を成せるものなれば、いづれも、勞苦をいとひて、安佚を好み、退守に安んじて、進取の氣に乏しく、その心怯懦にして、狂瀾怒濤を冒し、赤道、氷海を渉るべき勇氣なし。今日以後の時勢に在りて、かくの如き、富豪者のみなりせば、遂には、自己の財産を保つこと能はず、併せて、國の富をも失ふに至るべし。

（西村茂樹）

養成、養生、保養、養育、

○演習

一、なみと訓む字を知れる限り記せ。

二、次の假名を漢字にせよ。

タン勇、　遺サン、　キョーダ、　イトフ、

三、次の文字を用ゐて、熟語を作れ。

養、　源、　助、　富、　勞、　保、　務、

四、作文題、

伊能忠敬、

（下総國佐原村ノ豪家、伊能氏ノ養子、五十歳ノ時江戸ニ出テ暦學ヲ學ブ、五十六歳ノ時ヨリ各地ノ測量ニ從事ス、七十四歳江戸ニテ死ス、後チ其ノ功ヲ追賞シテ正四位ヲ贈ラル、）

第二十四章　短句及び短文

甲、講讀

一、左の語句の讀方及び解釋を問ふ。

淡霞、　破竹の勢、　拿捕、　竣功、
土産、　價値、　勿諸、　意匠、
蔓延、　偵察、　音物、　常盤木、
鳳輦、　割烹、　狼狽、　震動、
濫用、　吝嗇、　卓越、　紀念、

二、左の文意を口語にて記せ。

1、瀬戸内海は、東口は紀伊海峽を經て、太平洋に通じ、西口は二に分れ、西方は、長門海峽によりて日本海に至り、南方は、豐後海峽を過ぎて太平洋に通ず、されば、潮汐は、東西より進退するを以って、水族も亦こ

○通過

講……嬉

、より去來するなり。

2、天皇は、國の元首にして、大權を總攬し、陸海軍を統帥し戰を宣し、和を講じ、諸般の條約を締結したまふ。

3、韓國を保護の下に置き、樺太の南半部を割取し、旅順及び大連の租借權を得て、大和民族の活動に對し、至大の便を與へたり。

4、花笑ひ、鳥歌ふ野山の景色、いかに樂からんと、今より想像せられ候。

5、信用に關することは少事なりとも、忽にすべからざるものに候。

6、神武天皇、高御座に即かせ給ひしより、既に、御代は

系……糸

百二十二代、年は二千五百六十餘年の久しきに及び、一系の皇統は、連綿として、絶ゆることなく、君臣の秩序は井然（せい）として、紊（みだれ）れしことなし。

7、快活の心腸は、健全なる樂より養成せらる。

乙、書取

一、左の片假名を漢字に改めよ。

舟二ソー、白いユゲ、ドノーを縫ふ。

血エキをセイケツにす、コンキョ地、セイリョクをカクチョーす、

二、左の文字の略字を示せ。

蠶、寶、醫、點、條、

波、汐、退、連、

三、三ズイ、シンニューの文字を知れる限り記せ。

丙、綴方

一、左の歌の大意を、普通文に綴れ。

しき島の大和心を人問はゞ朝日に匂ふ山櫻花。

第二十五章　書方

書方（習字）は、筆力强健にして、文字の配置正しきを善しとす。されば、試驗場に於ては、示されたる問題の字數によりて、先づ、その配置を考へ、脫字、誤字等のなきよー正確に、かつ、明瞭に認むべし。

〔注意〕受驗の際には、用ゐ慣れたる毛筆を携帶すること。淨書する前に、墨色の濃きか、うすきかを、ためし見ること。

書き直しせざること。

今、左に或る二三の學校の試驗問題を示さん。

一、德勝不祥仁除百禍、
二、恭儉持己博愛及衆、
三、大小年月晝夜才德勇壯、
四、蓬生麻中不扶自直、
五、皇恩自抱丹心、
六、善勤善遊是爲學之要訣、
七、文字は人の思想を表す、
八、虎穴に入らずんば虎子を得ず、
九、細字（問題は省略す）

右は半紙一枚に書くものにして、書體は大概、楷書なり。但し書體隨意とせる所もあり。

また別に、書方の問題を課せず、綴方の筆蹟にて、評點する學校あり。故に綴方の答案は、必ず、毛筆を用ゐて、丁寧に書くを肝要とす。

○書取の答案

第三章

一、歡迎、團體、關係、野菜、商人、石燈籠、

第五章

一、景色、摘草、甘蔗、慈善、案內、黃金、

旅團、肥料、

二、植物、……栽培、物品……整頓、雞、……飼、……薪、……取、
常、衞生、身體、衣服、住居、清潔、

第六章

一、古代風の建築、流れる涙、討死、蠟燭、膏藥、

第八章

一、(イ)象、鼻、長、(ロ)牛肉、滋養分、(ハ)夜明頃、敵、(ニ)水雷艇、

第十章

一、蠅、蜘蛛、猿澤池、幾筋、縱糸、籠、

第十二章

一、大山元帥、印刷物、常備艦隊、天皇陛下、

貯蓄銀行、熟練、樟腦、障子、

第十三章

一、約束、風俗、穀物、連絡、
裁判、製法、輸入、

第十五章

一、(イ)酒醬油類、賣捌、(ロ)氣象臺、測候所、空氣中、現象、
調、天氣豫報、警報、發所、

第十七章

一、圓錐形、若芽、中央氣象臺、洗濯物、大供養、沿岸、

第十八章

一、激變、膨脹、茶碗、循環運動、評判、彈丸、味方、

臺灣征討、

第二十章

1、正直、勢力、衆、秀、齢、白髪、肩、氣力、盛、少壯、
2、着實、僥倖、
3、驢馬、直接、自治團體、職務、執行、彈藥、糧食、下男、麥俵、牛乳桶、漕、寶、獲物、

第二十二章

一、賣買、彫刻、天壌無窮　租税、納、維持費、分擔、豫算、嗜好、

第二十四章

一、艘、湯氣、土嚢、液、清潔、根據、勢力擴張、

第貳編　算術科

第一章

一、次の數を讀め。

805002340　　37.008　　0.7345

二、偶數、奇數とは如何。

二、四、六、八、一〇、一二……等は偶數にして、三、五、七、九、一一、一三……等は之を奇數と稱す。

三、二位の數、三位の數とは如何なるものをいふか。

例へば　25　は二位の數にして、375　は三位の數なり。

四、左の語の意義を示せ。

偶數とは二で割り切れる數、奇數とは二で割れば一殘る數をいふ

數量、名數、不名數、整數、

〔解〕數量とは、米八升とか、金參圓とかの如く、升と云ふ單位の名の頭に、數の八或は三を添ひて言ひ表したるものなり。

名數とは、單位の名を添へたる數、例へば參圓の3といふ數は名數なり。

不名數とは、普通の數5、8等をいひ名數に對して不名數といふ。

五、次の名數を通常の呼方にて言ひ表はせ。

20斗　35升　75畝

1000匁　100錢　0.32圓　8.53哩

0.73石　0.65尺　7.5斤

六、商人あり、金千七百圓を有し、其中より九百圓を費し、又五百圓を利し、再び六百圓を得、又三百七十九圓を損せり、現在金何程。

七、八十六里の道を若干里行き、三十里歸り、中央の處に着せり、最初行きし里程は、幾何なりしか。

一〇〇〇匁は即ち一貫目なり、一〇、三二圓は三十二錢といふ

八、舟夫あり、一河を遡るに、毎時の漕ぐ力四十五町、水流は毎時二十六町、舟行毎時の速さは何程。

九、次の式の結果を求めよ。

(イ)　48錢 + 12.653圓 − 0.75圓

(ロ)　9尺 + 3.75丈 − 85寸

一〇、或人井戸の深さを測らんが爲め、18.7尺の繩を下したるに屆かず、更に12.7尺の繩を足したるも屆かず、更に 6.3尺のものを足したるに 2.5尺餘りたりといふ、井戸の深さは幾何なるか。

一一、兒童あり、筆三本を七錢五厘、書物二冊を四十五錢、石筆四本を一錢二厘にて買ひ、一圓紙幣を以て其代を拂へたり、然らば幾何の釣錢を得べきか。

一二、四百五十六に、幾何を加ふれば、一千百となるか。

五倍と八倍との和は十三となる
七倍と四倍との差は三倍となる

一三、一億より二十五を減せば、殘り何程。

一四、玄米二十石を百五十七圓にて買ひ、此を搗き、運賃二圓八十五錢と、搗賃九圓二十錢をかけ、此を白米にして賣りしに、代金百八十五圓九十錢を得たり、其損益の計算はいかん。

第二章

一、減數、被減數、乘數、被乘數、積、和、差、の意義を說明せよ。

二、或る數の五倍と、八倍との和は、或る數の何倍なるか。

三、或る數の七倍と、四倍との差は、或る數の何倍となるか。

四、日曜日を全休、土曜日を半休とし、毎日七十錢を得、四週間の得金は如何。

五、音は一秒時に、三町の速さを以て進行す、今敵の砲烟の上るを見て、五秒時にして砲聲を聽きたり、彼我の距離は何程。

小數乘法の規則

六、小數乘法位の取方はいかん。

整數の如く運算を施し、其結果に付て小數點以下の位の數丈け、下より數へて、小數點を打てばよろし。

七、95.325×43 は何程。

〔解〕

```
  95.325……被乘數
  ×43……乘數
  285975
 381300
 4098.975
```

被乘數に小數が三位ある故三位上り小數點を打つ
(此時乘數には小數なし故に三位丈上りてよろし)

八、485×0.32 は如何。

```
  485
 ×.32
  970
 1455
 155.20
```

九、綿百目は二十五錢三厘なり、然らば三貫五百六十目の價は幾何なるか。

〔解〕　被乘數　乘數
2 5.3 錢 × 3 5.6 = 9 0 0.6 8 錢

2 5.3……小數點以下一位
× 3 5.6……小數點以下一位　小數點以下合計二位
1 5 1 8
1 2 6 5
7 5 9
9 0 0.6 8……小數點以下の位の數合計二位あり故に二位上りて小數點を打つ其位をば錢と定む

答　九圓六厘八毛

〔注意〕　乘數はただの數、即ち不名數にして、積は即ち被乘數と同名の數なり、

一〇、一反十四圓五十六錢の縮緬、一匹の價、及十二匹の價は、各々何程なるか。

1 4.5 6 圓 × 2 = 2 9.1 2 圓

通例圓の位を單位とし小數點を附するを便とす

900.68錢は九圓六厘八毛なり

一匹は二反とす一反は二丈八尺なり

一一、或人自轉車に乘り、4.5里を一時間に行きたり、然らば五時間の後には、何里を進行するか。

4.5 里 × 5 = 2 2.5 里

一二、次の運算を施せ。

7.3 貫 × 7 0 8.5

9 4 2 5.6 2 5 × 8.3 7

7.0 7 石 × 4.3

9.3 2 尺 × 4 0 0.

一三、縱橫各々一間なる正方形の土地の面積は何程。

一四、縱三間、橫二間半の長方形なる土地の面積は如何。

2.5 × 3 = 7.5 步

答　七坪五合

〔注意〕　縱橫を乘じて、其面積を求むるを得るは、正方形又は長方形の土地なるべし

一五、十五ダースの鉛筆は、幾本あるか。

一六、或る數の三倍は三十三なり、或る數幾何なるか。

一間四方の面積は一坪、又は一步ともいふ　田畑山林の廣さは町段畝步を用ひ市街宅地家屋等の廣さを表すには坪合勺才の名稱を用ふ

一ダースは十二本なり

〔解〕 或る數 ×3=33

故に或る數は 33÷3=11 なり

一七、 一日七十錢宛得る人あり、若干日働きて三圓五十錢を得たり、其働きし日數は何日なるか。

〔解〕 70錢 × 若干日 = 350錢

故に若干日は 350÷70=5日

一八、 乘法に於て乘數、被乘數、積の三者の中何れか二つを知る時は、他の一つの未知數を求むることを得。

〔解〕 (イ) 被乘數×乘數=積

(ロ) 積÷乘　數=被乘數

(ハ) 積÷被乘數=乘　數

一九、 十五を若干倍する時は、四十五となるか。

二〇、 一日に幾里宛行く時は、十五日間に百六十五里の道を行くことを

得るか。

第三章

一、 次の割り算を行へ。

(イ) 4688.24÷8

(ロ) 48.26÷10000

(ハ) 19.5÷250

(ニ) 25÷950

二、 左の割り算を行へ。

1925÷0.7

〔解〕 1925.0÷0.7=19250.÷(0.7×10)

=19250÷7=2750

三、 名數を只の數即ち不名數にて割るときは、商は名數となることを示

小數を整數にて割る時は商の始めの位は第一に下したる實の終の位と同じ

例 0.032÷23の時

.001	
23	0.032
	23
	9

此時商の一は毛なり何となれば實のしたる部分の始めに下したる部分の終の位毛の位なればなり

規則 其二、法が小數なる場合には法の小數點を去り實の

小數除法規則 其一、小數又は雲

乘法の重要公式

錢を單位としたり

せ。

四、名數を同名數にて除する時は、商は不名數となることを示せ。

五、次の式を計算せよ。

（イ）9.86圓÷25　（ロ）11.2圓÷.7圓

六、除法に於て被除數、除數、商とは如何。

七、割り算に於て、二つの意味あることを説明せよ。

〔解〕（イ）等分の意義……240圓÷3=80圓

（ロ）割合を示すもの…（甲は25圓を有し乙は5圓を有す兩人所有金の比は如何。（比とは割合なり）25圓÷5圓=5不名數

八、左の式を計算せよ。

（イ）571948719471 5÷45705

（ロ）19924000÷3400

九、常尺（又曲尺）の一尺は、鯨尺（布帛を度るもの）の何程に當るか。

小數點を法の小數の位の數丈け下げて法整數なる場合と同じく割るべし

商とは割り算の結果をいふ

割る意義
一、等分す
二、割合を求む

常尺の一尺は鯨尺にて度る時は八寸なり

鯨尺の一尺を常尺にて度れば一尺二寸五分あり

三八、八〇尺は三丈八尺八寸なり

九、六尺は九尺六寸と讀むなり

圓の半徑は圓心より圓の周にまで至る距離にして直徑は其二倍なり

直徑を一とせば圓周は三、一四一六なり（分

一〇、鯨尺の一尺は、常尺の何尺に當るか。

一一、鯨尺にて二丈八尺の反物は、常尺にて度る時は何程。

28尺×1.25=35.00尺　答　三丈五尺

一二、常尺にて四丈八尺五寸は鯨尺にて何程あるか

〔解〕常尺の一尺は鯨尺の八寸なるが故 48.5尺×0.8=38.80尺　答　三丈八尺八寸

一三、長さ二間の處に幕を作らんとす其幕の長さ鯨尺にて何尺あるか。

6尺×2=12尺　12尺×0.8=9.6尺　答　九尺六寸

一四、曲尺（常尺のこと）4.082尺は鯨尺にて何程。

4.082×0.8=3.2656尺　答　三尺二寸六分五厘六毛

一五、圓の半徑、直徑及び圓周とは何か。

一六、圓の直徑と、圓周との割合はいかん。

一七、圓周率とは何か。

數の約半となる）

〔解〕直徑と圓周との割合を示す數三、一四一六を圓周率と稱す、分數にて約七分の二十二なり。

一八、半徑六寸の桶の周の長さは何程。

〔解〕6×2=12寸　此は直徑なり一般に直徑と圓周との比は 1 と 3.1416 との割合なり故に 12寸 なる直徑を 3.1416 倍すればよろし。

12×3.1416=37.6992寸

答　三尺七寸六分九厘九毛二絲

一九、直徑八寸の火鉢あり、其周りは何程あるか。

二〇、圓の周は直徑の何倍となるべきか。

二一、直徑は圓周の幾分の一となるか。

〔解〕直徑を一とすれば圓周は三、一四一六なり故に直徑は圓周の $\frac{1}{3.1416}$ なり、分數にて約 $\frac{7}{22}$ となる。

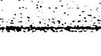
二二、一回轉に、一丈二尺五寸丈け進む車の輪の直徑は何程なるべきか。

但し すまて四捨五入により計算せよ。

第四章

一、正方形、直方形とは如何なる形なるか。

正方形は各四邊共皆長さ相等しく、其四角は各々直角となり居るなり。



相對する二邊は相等しく、各々角皆直角となれるものなり。

二、一平方尺とは如何。

三、三平方尺とは如何。

〔解〕一平方尺のものが、三ツ集りたるものにして、三尺平方等と混同すべからず、三尺平方は九平方尺（3×3=9平方尺）となる。

四、一平方寸、一平方分の意義を示せ。

五、一間四方の面積は此を何とよぶか。

直角とは九十度になれるなり

縦横一尺なる正方形の面積を一平方尺といふ

三平方尺と三尺平方との區別

一平方寸とは一寸四方の正方形の面積一平

六、一坪の面積に、疊を何疊敷くことを得るか。

七、二間四方の室あり、疊幾疊を敷くべきか。

　答　八疊

八、長六、二尺幅一、五尺の板の面積は幾平方尺あるか、又幾平方寸あるか。

九、縦八寸五分横二寸八分の金箔あり、幾平方寸あるか。

一〇、面積八、二五平方尺の板あり、幅は一尺五寸とせば、長さは何尺なるか。

　答　五尺五寸

一一、長さ七間幅四間の畑地あり、此畑を二十歩耕したりとせば、殘りの面積は何歩なるか。

一二、圓形の面積を求むるには、如何にすべきか。

〔解〕半徑の二乘に圓周率を乘ずべし、二乘とは同じ數を掛け合すことにして、五の二乘は二十五、六の二乘は三十六なるが如し、決して二倍することゝ、二乘することゝ混ずべからず。

一三、正方形の面積を求むる計算法は如何。

〔解〕正方形の一邊を二乘すればよし。

一四、半徑八寸五分の圓あり、其圓の面積は幾平方寸なるか。

一五、直徑九寸四分の圓の面積は、幾平方分あるか。

一六、一立方尺とは何をいふか。

一七、一立方寸、一立方分とは、何をいふか。

一八、縦二尺五寸、横一尺八寸、高さ二尺の體積は、何立方尺あるか、又此を立方寸にて示せば何程。

一九、體積五千百立方寸のものあり、其縦は一尺五寸、幅は二尺なりといふ、高さは如何。

　答　一尺七寸

（又自乘冪）は二十五にして $5\times5=25$ 通例 $5^2=25$ と書く

縦横高さ各一尺なる物の體積を一立方尺といふ

一邊を三乘すればよろし

半徑の二乘に圓周率三一四一六を乘じたるものは即ち圓柱の切口の面積にして此に高を乘じて體積となる

二〇、立方體の體積を求むる計算法はいかん。

二一、直徑一尺八寸高二尺五寸五分の圓柱あり其體積は幾立方寸なるか。

〔解〕 半徑は28÷2=14寸

$14\times14\times3.14\cdot6=615.7536$平方寸

$615.7536\times35.5=21859.2523$立方寸

答 二萬一千八百五十九立方寸、二五二八

第五章

一、$(3.285+705.375-2.809)\times25.32$

二、$.576\div10000$

三、$1.262\div9.7$

四、$0.03753\div.000006$

五、$0.00005+1$

六、$45.3\div2020$

七、$2\div0.1-(.2\div.02+.8\div10)\times4.53$

八、毎時 8.85 粁里 を行く人あり、30.2375 粁里 を行くに、何時間を要するか。

英里は又哩とも書く

九、$17.38\times4.2\times1.5\div6+2.62-1.53$

一〇、$547.77\div9.3-(26+3.45)\times3.5$

一一、此に一數あり、〇、〇二五の四十三倍なりといふ、此數は何程。

一二、大小二數あり、其積は百九十五にして、小は六、五なりといふ、大數は何程なるか。

一三、男女の雇人あり男三人の賃錢は女四人に相當す、今男一人の賃錢二十八錢とせば女一人の賃錢何程。

〔解〕 男女各一人の力は四と三との割合なり、今四の割合なる男の賃錢を二十八錢とせば

力の割合一に付ては七錢となる、而して女は三なる力を有するが故 3×7=21 錢となる。

一四、 四圓十錢の金を、五十錢銀貨と、二十錢銀貨とにて、受取りたり今五十錢銀貨の數五枚とせば、二十錢銀貨の數は何程。

第六章

一、 五分の二の意義を示せ。

〔解〕 二ツの意義あり、即ち一箇を五等分したるものを、二ツ丈け集めたるものと考ふることを得、又二箇を五等分したる一部分とも考ふべし。

二、 一箇は三分の一を幾つ合して成るか。

三、 三分の一を二つよせる時は、幾何となるか。

四、 一圓五分の三の意義を示せ。

〔解〕 一圓と一圓の五分の三との和なり、此を通例一圓五分の三と呼ぶ。

五、 五分の三圓とは如何なることか。

一箇は三分の一を三つを合したるものなり

$\frac{1}{3}$ を二つ合すときは三分の二となる

〔解〕 $\frac{3}{5}$ 圓とは三圓を五等分したるものにして、此を五分の三圓といふ、一圓の五分の三といふも其値同じ。

六、 $\frac{5}{7}$ と $\frac{3}{7}$ と何れが大なるか。

七、 二十錢を一圓の分數として此を示せ。

八、 $\frac{1}{3}$ の半は何と云ふか。

九、 一圓五分の三、一圓の五分の三、一圓と五分の三の意義を示せ。

〔解〕 一圓五分の三といふも、一圓と五分の三といふも、同じことなり、但し一圓の五分の三は此と値を異にす。

一〇、 五分の二と三分の一とは、何れが大なるか。

〔解〕 分數の大小を比ぶるには、通分して其分子を比べ、分子の大なるもの、方値大なり。$\frac{3}{5}$ と $\frac{1}{3}$ とは通分すれば $\frac{9}{15}$ と $\frac{5}{15}$ となる故に $\frac{9}{15}$ 即ち $\frac{3}{5}$ なる分數が $\frac{1}{3}$ より大なり。

一一、 次の分數を通分せよ。

(1)　$\frac{2}{7}$ と $\frac{1}{2}$

二十錢は $\frac{1}{5}$ 圓なり、$\frac{1}{3}$ は $\frac{1}{6}$ の半なり

通分とは諸分數の値を變せずして

(2) $\frac{2}{5}$ と $\frac{5}{6}$

(3) $\frac{2}{13}$ と $\frac{1}{3}$ と $\frac{2}{5}$ と

一二、通分の規則を示せ。

諸分數の分母の最小公倍數を求め、此を公分母となし、此を各分數の分母にて除りたる商を、各々の分子に乘すればよろし。

一三、五分の三、七分の二を通分せよ。

【解】公分母は、三十五にして、五分の三を三十五にすれば、七倍するにより、分子の三も亦七倍して二十一となす。

七分の二は分母の七を三十五にするときは、五倍するが故に、分子二も此を五倍するを要す、即ち答は $\frac{21}{35}$ 及 $\frac{10}{35}$ となる。

一四、次の各組の分數を通分せよ。

(イ) $\left(\frac{2}{3}, \frac{3}{5}\right)$

(ロ) $\left(\frac{3}{4}, \frac{1}{5}\right)$

(ハ) $\left(\frac{7}{10}, \frac{2}{5}, \frac{8}{15}\right)$

一五、次の分數を計算せよ。

(イ) $\frac{5}{7}+\frac{3}{7}$

(ロ) $2\frac{1}{5}+3\frac{2}{5}$

【規則】同分母の分數を加ふるには、分母を其まゝにし、分子を相加へたるものを和の分子となすなり。 $\frac{5}{7}+\frac{3}{7}=\frac{5\times3}{7}=\frac{8}{7}=1\frac{1}{7}$

一六、次の分數を計算せよ。

(イ) $\frac{5}{13}-\frac{2}{13}$ ……$\frac{5-2}{13}=\frac{3}{13}$

(ロ) $2\frac{3}{5}-1\frac{1}{5}$ ……$1\frac{2}{5}$

(ハ) $1-\frac{5}{17}$ ……$\frac{17-5}{17}=\frac{12}{17}$

〔解〕 一箇より常分數を引くときは、分母は其儘、分子は其の分母より分子を引き去りたるものを以てす。

一七、 次の分數を計算せよ。

$$5\frac{5}{7}-2\frac{3}{4}$$

〔解〕 $\frac{5}{7}$ は $\frac{3}{4}$ より小なれば $\frac{5}{7}$ を $4\frac{7+5}{7}=4\frac{12}{7}$ となし此中より $2\frac{3}{4}$ を減すべし　此時 5 の中より 1 をかりて $5\frac{5}{7}$ を $4\frac{12}{7}$ とを通分すれば $4\frac{48}{28}$ と $2\frac{21}{28}$ となる　從て $4\frac{48}{28}-2\frac{21}{28}$

$$=2\frac{27}{28}$$

一八、 左の諸分數を計算せよ。

（イ） $2-\frac{13}{75}$

（ロ） $3\frac{2}{3}-2\frac{1}{2}+5\frac{3}{7}$

（ハ） $\left(5\frac{3}{4}-2\frac{7}{8}\right)-\left(5\frac{1}{2}-4\frac{4}{5}\right)$

（ニ） $5\frac{1}{2}+\frac{7}{5}-\frac{3}{4}$

一九、 $5\frac{1}{7}$ を三倍せよ。

$$5\frac{1}{7}\times 3=\frac{5\times 3}{7}=\frac{15}{7}=2\frac{1}{7}$$

二〇、 $13\frac{7}{25}\times 2$ を計算せよ。

〔解〕 $13\frac{7}{25}$ は 13 と $\frac{7}{25}$ との和なり、此帶分數を 2 倍する時は整數と分數と各々別々に 2 倍して加ふればよし

即ち $\left(13+\frac{7}{25}\right)\times 2=13\times 2+\frac{7}{25}\times 2=26+\frac{14}{25}=26\frac{14}{25}$

二一、 分數と整數との乘法の規則を示せ。

（イ） 常分數と整數との乘法は、分子に丈け整數を乘じ、分母は其まゝとすべし。

（ロ） 帶分數と整數との乘法は、帶分數の整數と分數との各々に整數

をかけて此を加ふべし。（又帶分數を假分數に直して此を整數にて倍するもよろし）

二二、次の分數乘法を計算せよ。

（イ）$\frac{5}{7}\times\frac{2}{3}$

（ロ）$3\frac{3}{5}\times 2\frac{1}{3}$

（ハ）$7\frac{3}{5}\times 7\times 3\frac{1}{2}$

（ニ）$15\times\frac{2}{3}$

二三、左の分數を計算すべし。

（イ）$\frac{3}{5}\div 2$

答　十分の三

（ロ）$3\frac{5}{7}\div 4$

答　十四分の十三

（ハ）$15\div\frac{2}{3}$

答　二十二個二分の一

數を乘する場合に帶分數を假分數に直して之に乘するもよし

（ニ）$\frac{5}{9}\div\frac{2}{3}$

答　六分の五

（ホ）$7\frac{2}{3}\div 5\frac{5}{6}$

答　一個三十五分の十一

（ヘ）15÷7

答　二個七分の一

二四、大工あり、一工事を十三日に成工すといふ、然らば一日に全仕事の幾何をなすか。

一箇の仕事を十三日になすが故に一日には十三分の一の仕事をなす

二五、或る數より、七分の五を減ずれば、$2\frac{3}{5}$となるといふ、其數を、求めよ。

$\frac{2}{5}$とは一畝の五分の二なり

二六、二反三畝$\frac{2}{5}$とは、何反何畝何歩のことか。

［解］　30歩$\times\frac{2}{5}$＝12歩　　2反3畝＋12歩＝2反3畝12歩

二七、四百五十日を年の單位に直せ。

［解］　450÷365＝1年$\frac{85}{365}$即ち約分して一年と七十三分の十七となる。

第七章

一、左の小數を分數に、又分數を小數に直せ。

0.3　　0.07

0.12　　0.0008

0.0135　　0.0012

$\frac{5}{10}$　　$\frac{32}{100}$

$\frac{53}{10000}$　　$\frac{7}{10000}$

二、左の小數を分數に直し、且つ出來る丈け簡單にせよ。

0.5　　0.14　　0.135

0.02　　0.05　　0.003

2.28　　5.21　　67.125

小數を分數に直す規則

小數を整數の如く書きて分子とし分母は一の右に小數點以下の位の數丈け零を附けたるものを以てし後ち約分すべし

$0.07=\frac{7}{100}$

三、左の分數を小數に直せ。

$\frac{2}{3}$　　$\frac{3}{5}$

$2\frac{3}{7}$　　$4\frac{7}{10}$

$\frac{5}{40}$　　$\frac{1}{75}$

$\frac{5}{12}$

$15\frac{34}{100}$

$13\frac{275}{10000}$

分數を小數に直すには分子を分母にて除すべし

割り切れざる時は循環小數となる

四、左の各組の小數と分數との値を比べよ、（但し小數をば此を分數に直して比べよ）。

(0.25と $\frac{3}{5}$)

(0.14と $\frac{4}{25}$)

(0.635と $\frac{3}{7}$)

(0.06と $\frac{8}{13}$)

(2.32と $\frac{22}{11}$)

(0.91と $\frac{2}{13}$)

五、長さ四百六十三間の堤あり、今此の一端より他の端まで、三尺毎に

松一本づゝを植うる時は、何本を要するか。

六、 兄弟二人あり、其所有金合計二圓九十錢にして、兄は弟より五十錢多く有すといふ、各々幾何。

〔解〕 290−50=240 弟の所有金、兄は 290−120=170 錢
240÷2=120 弟の所有金
240+50=290 兄の所有金

七、 甲乙の二人あり、甲乙年齢の和四十八才にして、甲は乙の二倍より三才多しといふ、各々の年齢は何才なるか。

〔解〕 48才−3=45才…乙の年の3倍
45才÷3=15才…乙の年
從て 15×2=30 甲の年なり。

答 乙 十五才
甲 三十才

八、 大工あり、五日間働きて三圓五十錢を得たり、然らば十五日間働く時は幾何を得るか。

〔解〕 350÷5=70錢……一日の賃錢

兩數の和と差とを知るときは先づ和より差を引き去り小の二倍を得るにより此を二分して小なる數を得

70×15=1050錢

九、 布八尺の價三圓五十錢なりといふ、四丈八尺の價は幾何なるか。

〔解〕 48尺は8尺の何倍なるかを比べんには $\frac{48}{8}$ 倍となる。
從て代價も亦 350錢の $\frac{48}{8}$ 倍ならざるべからず
其式は 350錢×$\frac{48}{8}$=2100錢

答 十圓五十錢

一〇、 一の仕事あり、之を成功するに二十三日を要するといふ、然らば一日には全仕事の幾部分をなすべきか。

一一、 職工あり、二週間と三日の間に、賃錢八圓五十錢を得たり、此割合にて、金十五圓を得んには、幾日働くべきか。

〔解〕 850÷(7×2+3)=50錢……一日の賃錢
15圓÷.5圓=30日

答 三十日

一二、 唐縮緬一尺の價は二十八錢なれば、一丈八尺五寸の價は幾何なるか。

一日には全仕事の二十三分の一づゝをなす

二週間と三日は十七日間なり 7×2+3=17
17×$\frac{1500}{850}$=30 とするもよし

るか。

一三、 或人に時刻を問ひしに、今より正午までの時間は、今朝四時より今までの時間の三倍なりといふ、今の時刻は何時か。

〔解〕 午前四時 ——→ 今 ——→ 正午

午前四時より正午までは總計八時間なり

此の八時間は圖の上にて見るに丁度四時より今迄の時間の $1+3=4$ 倍に相當す、故に $8\div(1+3)=2$ 時は今朝四時より今時までの時間にして即ち今は $4+2=6$ 時

答　午前第六時

一四、 大小二數の和二十三、差は五なり、各々の數を求めよ。

〔解〕 大小の和 23 ＋ 大小の差 5 ＝ 28 ‥大の 2 倍

$28\div2=14$ 大　從て $14-5=9$ 小

答　大　十四
　　小　九

一五、 或る數より $\frac{2}{5}$ を減じ、此に $1\frac{3}{5}$ を加ふれば 5 となる、或る數何程なるか。

〔解〕 $5-1\frac{3}{5}=3\frac{2}{5}$ ……或る數より $\frac{2}{5}$ を減じたるもの

$3\frac{2}{5}+\frac{2}{5}=4$ ……或る數

答　四

一六、 或る人所有金の五分二を費して、猶十八錢を殘せり、始めの所有金何程。

〔解〕 始めの所有金を 1 とし、此中五分の二を費すときは、殘は始めの所有金の $1-\frac{2}{5}=\frac{3}{5}$ となる、即ち次の關係を得。

所有金の $\frac{3}{5}=18$ 錢

從て所有金は 18 錢 $\div\frac{3}{5}=30$ 錢

答　三十錢

一七、 百九十五個を二つに分ち、一方の數を他の數より二十一個多くせんとするには、大小各を幾何にすべきか。

〔解〕 195−21＝174

174÷2＝87……小

87＋21＝108 ……大

答　小　八十七
　　大　百〇八

一八、金五十六萬圓あり、之を五千人に分配すれば、各一人の得る金高は何程なるか。

第八章

一、三十四町は何海里に當るか。

二、三里十一町は何海里に當るか。

三、二十九町三十間は何哩に當るか。

四、或家にて三ヶ月に要せし米の量を調べしに、三石九斗五升なりといふ、平均一日に要せし量幾何なりしか。

五、一分間に、二町十二間三尺の割合に走る馬は、一時二十五分間には何程を走るか。

答　五里七町四十二間三尺

六、自轉車は、一時間に三里十二町四十八間を行くといふ、三時間半には何里を行くか。

一海里は凡そ十七町なり（十六町五十八間三尺）

一英里（哩）は約十四町四十五間に當る（一哩は約〇、四一里）

一時二十五分は八十五分に當る

里程を間に通し三倍半せよ

七、六里三十四町四十六間の道を四時間に行けり、一時間の速さは何程なるか。

答　一里二十六町四十一間四尺

八、或人の體重を量りしに、四十八キログラムありといふ、此を我貫目に直せ。

九、間口十三間半にして、坪數百十二坪六合ありといふ、此奥行何程なるか。

一〇、十五町を里の分數に直せ。

答　$\frac{15}{36}$　即ち　三十六分の十五里

一一、二十五間を里の分數に直せ。

〔注意〕一里即ち三十六町を間の單位に直し二十五間を除す

一二、左の式を運算せよ。

（イ）　372.768÷52.8

十五キログラム（瓩）は四貫目に當る

$\frac{25}{36\times60}$ 里とすべし

一節とは一時間に一海里即六千八十呎進む速さをいふ（一海里凡そ十七町）

（ロ）　0.762 を分數に化せよ。

（ハ）　$43\frac{5}{7} \div 8\frac{16}{21}$

一三、速力二十九ノットを以て走る水雷艇が、速力二十ノットを以て走る汽船の後より、同じ方向に進みたり、今水雷艇首が、汽船尾に達してより、相離るゝに至る迄に、幾秒時間を要するか。

但し水雷艇の長さ五十呎、汽船は三百九十七呎、又一海里は六千八十呎とす

〔解〕　水雷艇の船首が汽船の尾端に接してより汽船の全長を乘り越え且つ又水雷艇自身の尾端が汽船の船首にあるまで乘越えざるべからず、即ち 397＋50＝447 呎丈け乘越えざるべからず、此丈け越ゆるには何秒を要するかといふに

6080呎 × 29＝176320呎

6080 × 20＝121600呎

176320－121600＝54720呎……1時間に乘り越ゆる長さ即ち此場合に 447 呎丈け乘越ゆるには何秒を要するかといふに 1 時間 即ち

$3600秒 \times \frac{447}{54720} = 29秒\frac{31}{76}$　　答　二十九秒$\frac{31}{76}$

名數の除法
一、名數を不名數にて除る時商は名數となり
二、名數を名數にて割る時は商は不名數となる

複名數とは諸等數のことなり

一四、次の計算を行ふべし。

$\frac{7}{9}$間÷12　　$3\frac{2}{5}$時÷4

34里÷$3\frac{3}{8}$里　　23石÷$2\frac{5}{17}$石

$13\frac{3}{7}$町÷$25\frac{2}{5}$町　　2圓÷$\frac{3}{5}$圓

一五、甲は田地二十七町四段二畝十五歩を有し、乙は一町八段二畝二十五歩を有せり、甲は乙に何倍するか。

一六、次の名數を複名數に直せ。

5.23日　　0.018日　　5.47時

一七、次の名數を複名數に直せ。

25375歩　　4854002尺

3 4 5.7 5 哩

一八、一哩は 0.4098 里 なりといふ、何町何間何尺なるか。

60000 尺

第九章

一、金百圓を借り、一年の後ち之を返すに、禮として十五圓を送りたり禮金の借用金に對する歩合は如何。

〔解〕十五圓が百圓に對する割合なるが故に $\frac{15}{100}=.15$ 即ち此を一割五分といふ。

二、次の歩合を讀め。

(1) 0.1　(2) 0.012　(3) 0.001

(4) 0.23　(5) 0.0102　(6) 0.035

三、左の小數を歩合にては何と呼ぶか。

(イ) 小數二分五厘……歩合にては一割五分

(ロ) 小數三厘五毛……歩合にては三分五厘

歩合とは小なる數が大なる數に對する割合なり

$\frac{3.5}{100}=0.035$

$\text{歩合}=\frac{\text{歩合高}}{\text{元高}}$　$\text{歩合高}=\text{元高}\times\text{歩合}$

四、次の分數を小數にて書け。

$\frac{1}{10}$　$\frac{1}{100}$　$\frac{1}{1000}$

$\frac{3}{10}$　$\frac{5}{100}$　$\frac{36}{1000}$

$\frac{3.5}{10}$　$\frac{382}{1000}$　$\frac{0.2}{100}$

五、次の歩合を分數にて示し、且つ出來る丈け約分せよ。

二　割　三分五厘　八歩(八分)　九　厘

四分八厘　一割三厘　七分　十三割

六、價二圓五十錢の書籍あり、之を三十錢引きて買ひたり、然らば引きたる價の歩合は何程となるか。

〔解〕 $30\div250=.12$

答　一割二分

七、玄米四斗を舂きて、一割三分耗をなしたり、其舂耗の高は何程なるか。

か。

〔解〕 4.×0.13=.52半

答　五升二合

八、定價五十錢の書籍を、一割二分丈け引きて買ひたり、其買價は何程なりしか。

九、元價四十三錢の品物を、一割の利益を得て賣る時は、幾何に賣るべきか。

〔解〕 43×(1+0.2)=51錢6

答　五十一錢六厘

一〇、蜜柑一箱の內に、腐敗したるものは三箇ありて、總數の五歩に當るといふ、總數何程。

〔解〕 總數の 0.05=3 從て總數は 3÷0.05=60

答　六十

一一、或る物品を、定價の一割五分引にて、一圓二十七錢五厘なりといふ、定價は何程なるか。

歩合算の五分は又五歩といふと同じ

〔解〕 1−0.15=0.85　　即ち定價の 0.85=1.275圓

從て定價=1.275÷0.85=1.5圓

答　一圓五十錢

一二、定價七圓の物品あり、此內二割引して賣りたれども、尙ほ一割二分の利益ありといふ、元價は幾何なるか。

7×(1−0.2)=5.6圓　　元價×(1+.12)=5.6

從て　5.6÷1.12=5.圓

答　元價は五圓

一三、一升は幾立方分の體積を有するか。

〔解〕 液を量るに用ふる桝の內法は、縱橫各四寸九分にして、深さ二寸七分なり、此より體積を計算すれば、49×4)×27=64827立方分

答　六萬四千八百二十七箇

一四、圓筒形の水桶あり、直徑一尺四寸、深さ二尺三寸なり、水の容量は幾立方寸なるか。

〔解〕 圓筒形の切口の圓形面積は　(14÷2)²×3.1416=153.9384 平方寸

從て體積は 153.9384×23=3540.5832 立方寸。

定價×0.85=1.275 ∴ 定價 $\frac{1.275}{0.85}$ =

一立方分とは縱橫高各々一分なる立方體をいふ

一立方寸とは縱橫高何れも一寸なる立方體をいふ

十を以て進まざる諸等數の除法は除數の殘りを次の位に直し其の位の數を加へて割る此を續けて行ふ

一五、 八百六十四人の兵士が、三ケ月食ふべき食糧あり、今百八人の人數を增す時は、幾ケ月を支へ得べきか。

〔解〕 一人一月ヶ月の食糧を單位とする時は $864\times3=2592$ 丈けの食量あるなり、今108人を增すときは $864+108=972$ 人となる此人數にて 2592 の食糧を食ふときは

$2592\div972=2\frac{2}{3}$ 月

答　二ヶ月三分の二

一六、 甲乙兩地間の距離三十六里二十七町あり、一人甲地を發し毎日九時間づゝ步み、三日を經て乙地に達したりといふ、此人平均一時間に幾里幾町づゝ步みしか。

27 | 36里 | 1里
　　27
　　9里×36=324町
　　+27
27 | 351 | 13町
27
　　81
　　81
　　0

答　一里十三町

一七、 左式を計算せよ。

（イ） $\frac{5}{27}+2\frac{1}{5}-1\frac{5}{7}$

（ロ） $0.275\div5.86$

（ハ） $0.0285\times0.248\div5.89$

一八、 二錢の郵便切手と、三錢の郵便切手とを、一圓丈け買ひたり、而して各々枚數は相等しといふ、其數を問ふ。

〔解〕 100錢÷(3+2)=20枚

答　二十枚

一九、 甲は金二千三百圓を有し、乙は七百圓を有せり、甲が乙に何圓を與ふれば、甲の所有金が乙の所有金に三倍するか。

〔解〕 甲の所有金が乙に三倍するとせば　乙を1として甲は3なり

甲及乙の所有金の和 2300+700=3000 圓 にして此所有金は甲が乙に3倍せし場

今に於ける乙の所有金の　$\frac{3+1=4}{}$ 倍なり故に乙の所有金は　$\frac{3000 \div 4 = 750}{}$
即ち初めの所有金を引去るときは 750−700=50 圓となる

答　甲より乙に五十圓を渡す。

第十章

一、 諸等數とは如何。

五里二十町三間五尺等の如く、二つ以上の單位を合せ用ひて、表はしたる名數なり。

二、 諸等數に、十進法によるものと否らざるものとあり、如何。

長さ三丈八尺五寸等の如き諸等數は、十進法によるも里程の如く十進法によらざるもの又多し。

三、 次の諸等數を單名數に通せよ。（單名數に直すとは間ならば間と一つの位の名數にするなり）

通法とは諸等數を單名數に直す法なり

命法とは單名數を諸等數に直す方法なり

（イ）五里三町二十五間を間に直せ。

（ロ）八里二十五町三十七間五尺を尺に直せ。

四、 左の名數を諸等數に直せ。

（イ）400町　（ロ）48500尺　（ハ）3083間

五、 十八町を里數に直せよ。

〔解〕 18町を里の單位に直すには 18÷36=0.5 里

六、 八町四十五間を里數に直せ。

〔解〕 45 間÷60 間=0.75 町

8 町+0.75=8.75

8.75÷36=0.243 里強

七、 0.305 里を諸等數に直せ。

〔解〕 36 町×0.305=10. 98 町

0.98町を間に直すには 60×0.98=58. 8間

0.8 間を尺に直すには 6尺×0.8＝4.8尺

答　10町 58間 4尺 8寸

八、英國の一海里は 16.975 哩なりといふ、何町何間何尺なるか。

九、一哩は約十四町四十五間なり、之を里の小數に直せ。

一〇、6.7 町を複名數に直せ。

一一、或人十五里三間の道を行くに、五里二十三町十八間は歩みて、他は車に乘りたりといふ、車に乘りし里程は何程なりしか。

一二、或人木綿二十三反を二十五圓にて買ひ、三圓を損して賣りたりといふ、一反の賣價は何程。

一三、兩人にて若干圓を分つに、甲は其 $\frac{2}{7}$ を取り、乙は三十圓を取りたりといふ、總金高及び甲の取り高は何程。

［解］總金を 1 とす 甲は $\frac{2}{7}$ を取りし故 乙は $1-\frac{2}{7}=\frac{5}{7}$ を取れり。

○、九七五町を何間何尺に直せばよし

複名數とは諸等數のことなり

各複名數を七倍し上の名數に上るものは此を上せよ

音の速は一秒に付き凡そ三町

即ち總金の $\frac{5}{7}$ が 30 圓に當るにより總金は $30\div\frac{5}{7}=42$ 圓 又甲は $42\times\frac{2}{7}=12$ 圓なり。

答　總金四十二圓　甲　十二圓

一四、一日に、五里二十五町三十六間四尺を歩行するとせば、一週間に何里何町何間何尺進み得るか。

一五、十八町十五間を隔りたる土地に於て、大砲を擊つを見たるに、其砲の烟の上るを見て後、六秒を經て音を聽けり、音一秒の早さを問ふ。

［解］18 哩÷6＝3 哩　15 間÷6＝2.5 間＝2 間 3尺

3 哩÷2.5 間＝3 哩 2 間 3尺

一六、甲乙二人あり、甲は毎時一里十六町十三間行き、乙は毎時一里二十三間を行く、今此兩人同時に同所を出發し、同じ方向に向ひ行く時は、四時間の後何程を隔つるか。

縦横何れも一里なる正方形の土地の面積を一平方里といふ又一方里ともいふ

〔解〕 1里 16町 13間－1里 23間＝15町 50間
15町 50間×4＝1里 27町 20間

一七、一平方里の面積とは如何なるものをいふか。

一八、五里平方の土地の面積を求めよ。

〔解〕 5×5＝25 平方里

答 十四町四十五間一尺強

一九、0.4098 里は諸等數に直せば何程なるか。

二〇、一海里は 16.975町なり、然らば三海里は何里何町何間何尺なるか。

二一、一哩は 0.4098里 とすれば、一平方哩は幾平方里に當るか。

〔解〕 0.498里×0.4098＝0.1693604平方里

二二、長さ 3.08 里 横 2.63 里 の土地の面積は幾方里なるか。

〔解〕 3.08×2.63＝8.1004 方里

二三、面積六十方里の土地あり、縦十二里十六町とせば横は何里あるか。

一哩は十四町四十五間は一海里は十七町として計算せよ

〔解〕 16町÷36＝0.444 里
12 里 16町＝12.444 里なり
故に 60÷12.444＝4.82 里強

二四、甲乙兩地の間は鐵道線路にて四百五十三哩、海路にて四百三十七海里なり、何れが何里短きか。

二五、一方哩は 0.1679方里 とせば、さかさまに一方里を一方哩に直すときは幾何なるか。

〔解〕 1方哩は＝1方里の 0.1679
從て 1方里は 1方哩÷0.1679＝5.95 方哩

答 五、九五哩

第十一章

一、或人田地十八町六段五畝十二歩を有し、此を兄弟二人に分ちたるに兄は十町八段九畝二十五歩を得たりといふ、弟の得し所は何程なる

か。

二、 甲乙丙三人の兄弟あり、甲は三段六畝歩を有し、乙は一町三段八畝十五歩を有し、丙は二町三段六歩を有したり、合計幾何となるか。

三、 田地一町一段九畝五歩を、九畝五歩づゝに仕切れば、幾何となるか。

四、 畑六町二段三畝歩あり、五坪毎に桑苗三十本づゝ植うる時は、總計幾本を植うべきか。

五、 兄弟二人あり、兄は田地三町八段三畝二十五歩を有し、弟は兄の四倍より二町五段六畝十三歩少しといふ、弟の所有地幾何なるか。

六、 汽車あり、平均一里を走るに六分三十六秒を要すといふ、然らば百五十六里の道は何時何分何秒を要するか。

〔解〕六分三十六秒を百五十六倍すればよし　答　十七時九分三十六秒

段別を各々歩に直して割り算を行ふべし

諸等數の乘法は下の位より倍して上位に上るものは之を上す

七、 借金を四度に返したる人あり、第一回に其七分の三、第二回に其十四分の五、第三回に其八分の一、第四回に百五十圓を返したりといふ、借金の高は幾何なりしか。

〔解〕三回に已に返したるは總高の如何なる分數なるかを求むるに

$\frac{3}{7}+\frac{5}{14}+\frac{1}{8}=\frac{24+20+7}{56}=\frac{51}{56}$ なり

從て　第四回の 150圓は借金の總高の $1-\frac{51}{56}=\frac{5}{56}$ に相當す　即ち總高は $150\div\frac{5}{56}$

$=1680$ 圓　答　千六百八十圓

八、 將校及下士合せて四十二名あり、將校人員は下士人員に八名を加へたるもの、四分の一に等しといふ、各人員を求めよ。

〔解〕將校人員は下士人員に八名を加へたるものゝ四分の一なり，

即ち下士人員に八名を加へたるものを 1 とせば將校人員は $\frac{1}{4}$ なり

今將校下士の實際の人數 42 人に 8 人を加へたるもの 42＋8＝50 人は其の關係あり

50人＝(下士人數より 8 名多きもの)の $\left(1+\frac{1}{4}\right)$ 倍なり。

$50\div\left(1+\frac{1}{4}\right)=40$ 人 下士人數より 8 名多きもの 40 人

$40-8=$下士の實際の人數即ち 32 人

從て將校は總人數 42 $-32=10$ 人

答 {下士…三十二人 / 將校…十人

（イ） $2.0075\times0.0428\div4.57$

（ロ） $\frac{5\frac{1}{3}+3\frac{3}{7}}{9\frac{5}{7}-5\frac{1}{3}}$ を簡單にせよ。

九、左の計算を行ふべし。

一〇、或る人七十二枚の書籍を寫さんとし、初日に其 $\frac{3}{8}$ 次の日には殘りの $\frac{2}{3}$ を寫したりといふ、後には凡べて幾枚殘るか。

一一、或人所有の田地二町八反あり、内二割を賣却したり殘りは何程。

一二、甲乙二人の大工あり、甲のみにて一の工事をなすに五日を要し、乙のみにては七日を要す、今甲乙兩人同時に共力して此仕事をなせば、何日にして成し終るか。

【解】 今總仕事を 1 とせば甲は 5 日に成就するが故一日の仕事は $\frac{1}{5}$、乙は 7 日を要するが故一日 $\frac{1}{7}$ の仕事をなす。

甲乙兩人一日の仕事　合計 $\frac{1}{5}+\frac{1}{7}=\frac{12}{35}$ なり

從て共力してなす日數は $1\div\left(\frac{1}{5}+\frac{1}{7}\right)=2$ 日 $\frac{11}{12}$ なり　答 二日 $\frac{11}{12}$

第十二章

一、四日間に、書物一冊の $\frac{2}{5}$ を讀む時は、全部を讀み終るには、何日を要するか。

二、二個の桶に、水七升五合を入れんとするに、一つの桶には他の桶の二倍を入れんとす、各々の水の量は幾何。

三、或人宅地の五分の三に家をたて、殘りの三分の一に庭を作りたるに猶ほ四畝八歩を殘せり、宅地段別幾何なるか。

四日間に五分の二とせば全體は即四日の $1+\frac{2}{3}=5$

$\frac{2}{3}$ 倍の日數を要す 一桶を一とせば他の桶は二となり從て七升五合は少き方の三倍となる

〔解〕 宅地を 1 とせば $\frac{3}{5}$ を引き去りたる殘は $1-\frac{3}{5}=\frac{2}{5}$ なり.

庭は $\frac{2}{5}+\frac{1}{3}=\frac{2}{15}$ なり.

$1-\left(\frac{3}{5}+\frac{2}{15}\right)=\frac{4}{15}$ ……即ち全宅地の $\frac{4}{15}$ が 4 畝 8 歩に當る

而して 4 畝 8 歩は……128 歩なり

從て全宅地は $128\div\frac{4}{15}=480$ 歩 即ち 1 段 6 畝歩.

答　一段六畝歩

四、 甲乙二人にて二十八日間、甲一人にては四十日間に、出來る仕事あり、今之を乙一人にてなせば、幾日にて出來るか。

〔解〕 全體の仕事を 1 とす

甲一日の仕事……$\frac{1}{40}$

乙一日の仕事……$\frac{1}{28}-\frac{1}{40}=\frac{3}{280}$

今全體の仕事 1 を乙のみにてなせば $1\div\frac{3}{280}=93\frac{1}{3}$ を要す

答　九十三日 $\frac{1}{3}$

五、 二段三畝五歩の田と、三段八畝四歩の田とあり、此の兩方より、米十七石四斗八升を取り入れたり、一畝に付き平均何程の米を得たるか。

〔解〕 2 段 3 畝 5 歩 + 3 段 8 畝 4 歩 = 6 段 1 畝 9 歩

6 段 1 畝 9 歩 を畝の單位に通するときは 9 歩 ÷ 30 歩 = 0.3 畝

從て 6 段 1 畝 9 歩 = 61.3 畝 即ち 17.石 46÷61.3=0.285 石强

答　二斗八升五合强

六、 左の運算を行ふべし。

$0.371\div\left(\frac{3}{25}\times\frac{7}{12}\right)$

〔解〕 $\frac{371}{1000}\times\frac{100}{7}=5.3$

17.48÷61.3 の場合に 174.8÷613 として運算せよ

七、 端書と、三錢切手と、併せて五圓九十八錢五厘を買ひしに、其總數二百八十七枚ありたり、各々幾枚なるか。

〔解〕 3×287=861 錢

861−598.5錢＝262.5錢

262.5÷(3−1.5)＝175枚　端書

287枚−175枚＝112枚　切手

答 {切手　百十二枚 / 端書　百七十五枚}

八、荷車あり、其車輪の直徑三尺二寸六分なりといふ、今此荷車を以て一里二分の一の里程を行くとせば、車輪の回轉數幾何なるか。但し圓周率を$\frac{22}{7}$として計算し、端數あれば切り棄つべし。

〔解〕 $326\times\frac{22}{7}=\frac{7172}{7}$……輪周

又　$1\frac{1}{2}$里は……1944000分

∴　回轉數は　$1944000\div\frac{7172}{7}=189\frac{623}{1793}$

答　百八十九回强

九、一反四圓九十錢の紬若干反を、一反四圓の銘仙若干反と交換するに銘仙を紬より十反多くすれば、損得なしといふ、各々の反數を求む。

〔解〕 450錢の紬若干反と4圓の銘仙を之と同じ反數と交換するときは一反に付き紬の方が450−400＝50錢價高き故損なり、故に損得なき樣にする爲め4圓の銘仙を10反にて40圓丈けのものを更に與へなりとせば40圓＝(450−400)×紬の反數なる關係あり　即ち紬は40÷(450−400)＝80反　銘仙は……80＋10＝90反

答 {紬　八十反 / 銘仙　九十反}

一〇、或人商業をなし、初めに資本金の$\frac{2}{5}$を損失し、後七百四十圓の利益を得て、其所持金三千五百圓となれりといふ、此人初めに幾何圓の損をなしゝか。

〔解〕 3500圓−740圓＝2760圓

$2760\div\left(1-\frac{2}{5}\right)=4600$圓　資本金

4600圓$\times\frac{2}{5}=1840$

答　千八百四十圓

一一、一晝夜に、八分後るゝ時計をして、翌日の午前六時に、正しき時刻を示さしむるには、前夜午後十時半に、幾分進ましめ置かざるべ

一碼は三、〇一七尺なり

甲乙一日に歩行する里程を加へ此を五倍すればよし

からざるか。

〔解〕 12時－10時30分＝1時30分

1時30分＋6時＝7時30分……前夜午後十時半より翌日午前六時迄の時間

$8分\times\frac{7\frac{1}{2}}{24時}=2分\frac{1}{2}$　答　二分と $\frac{1}{2}$

一二、フランネル大巾物にて、一ヤード一圓二十錢なる時、同じ大巾物鯨尺にて、一丈四尺の代價を計算せよ。

但し一ヤードは我曲尺三、〇一七尺とす。

〔解〕 14尺×1.25＝17.5尺……鯨尺にて14尺は曲尺の17.5尺に當る

$1.20\times\frac{17.5}{3.017}=6.96$　答　六圓九十六錢强

一三、甲乙二人東西より同時に發し、甲は毎日十二里二十五町二十三間づゝ、乙は毎日八里二十三町三十間づゝ歩みて、五日目に相會したりといふ、東西の距離何程なるか。

○日歩一錢八厘とは百圓に付き一日一錢八厘の利子を生ずるなり

公式

$利子=日歩\times\frac{元金}{100}\times日歩$

元利合計の公式

$\frac{元金\times(1+利率\times期)}{}=元利合計$

第十三章

一、元金三百五十圓を、年一割二分にて、三ヶ年間貸す時は、利金何程。

二、元金四百五十圓を、日歩一錢八厘にて、六十日間貸すときは、利息何程。

$18厘+\frac{450}{100}\times60=486錢$　答　四圓八十六錢

三、元金八十四圓を、月一分二厘にて、五ヶ月間の利子を求めよ。

四、元金五百四十圓を、日歩一錢三厘にて、七十五日間の利子何程。

五、左の元利合計を求めよ。

（イ）元金三百圓、年利一割、三ヶ年の終に於ける元利合計何程。

〔解〕 $300\times(1+01\times3)=390$ 圓　答　三百九十圓

（ロ）元金二百五十圓、年利一割二分、二年四ヶ月の後に於ける元利合計幾何なるか。

〔解〕 $250\times\left(1+0.12\times2\frac{4}{12}\right)=320$ 圓　答　三百二十圓

（八）　元金三百五十圓、日歩一錢二厘、七十五日間貸すときは、元利合計何程。

〔解〕　12厘×$\frac{350}{100}$×75＝315錢
350＋3.15圓＝353.15圓

答　三百五十三圓十五錢

六、　月利率一分にて、金六十五圓を、二年四ヶ月の間貸すときは、其利子何程。

65圓×0.01×28月＝18.20圓

答　十八圓二十錢

七、　元金五百圓を、三ヶ年間貸して、利息金百二十圓を得たりといふ、年利率幾何なるか、

〔解〕　3ヶ年に利息120圓を得たるが故に1ヶ年には120÷3＝40圓なり
従て年利率は40÷500＝0.08

答　年利率八分

八、　元金千百圓を、七十三日間貸して、利息金十五圓四十錢なりといふ年利率幾何なるか。

〔別解〕　$350\times\left(1+\frac{0.012}{100}\times75\right)$＝353.15

日歩とは一日に百圓に付何錢何厘の利子をいふ

月利と一月の利率をいふ

公式　$\frac{利金}{元金}$＝$\frac{一期間}{利率}$

〔解〕　73日は1年の$\frac{73}{365}$＝$\frac{1}{5}$なり
15.40÷$\frac{1}{5}$＝77圓……1年の利子
∴　77÷1100圓＝.07

答　年利七分

九、　元金若干圓を、年利七分にて、三ヶ年貸して、利子金七十七圓七十錢を得たりといふ、元金何程。

〔解〕　77.7圓÷3＝25.9圓……1ヶ年の利子
元金若干圓の0.07分が＝25.9圓
従て元金は25.9圓÷0.07＝370圓

答　三百七十圓

一〇、　金若干圓を、年利一割二分にて、一年八ヶ月間貸して、利息金百十五圓二十錢を得たりといふ、元金幾何なるか。

一一、　四百圓を、年利六朱にて、或る期間貸して、利息六十圓を得たり其期間何程。

六朱とは六分のことなり

〔解〕 400圓×0.06＝24圓……1ヶ年の利息

總利金 60圓は 1ヶ年の利息 24圓が或る回數丈け重りてなりしものなるが故に

$60 \div 24 = 2\frac{1}{2}$ 年　　答　二年六ヶ月

一二、年七分、三ヶ年、元利百九十九圓六十五錢を得たりといふ、元金何程。

〔解〕 $199.65 \div (1+0.07\times3) = 165$ 圓　　答　百六十五圓

一三、年八朱にて、金若干圓を、$2\frac{1}{4}$ 年貸して、元利金三百七十七圓六十錢を得たり、元金は何程。

〔解〕 377.6圓 $\div \left(1+0.08\times2\frac{1}{4}\right) = 320$ 圓　　答　三百二十圓

一四、日歩一錢七厘、二十八日間に、元利百五十圓七十一錢四厘を得たり、元金何程。

一五、元金一千圓を、日歩若干にて、七十二日の間に、元利一千十二圓九十六錢を得たり、日歩何程。

元利合計より元金を求むる公式

$$\frac{\text{元金}=\text{元利合計}\div(1+\text{利率}\times\text{期})}{}$$

$1012.96-1000=12.96$

$12.96\div72\div\frac{1000}{100}=.018$ 圓　　答　日歩一錢八厘

第十四章

一、一海里は 16.975 町なり、此を諸等數に直せ。

二、七日十三時を時に直せ。

三、八日十二分四十六秒を秒に直せ。

四、235670秒 を諸等數に直せ、

60)235670
60)3927分……50(秒)
24)65……27(分)
2日……17(時)　　答　二日十七時二十七分五十秒

五、次の名數を複名數に直せ。

3685秒　　3657分

複名數は單名數に對して言ひたるものにして諸等數と同じ

2532時　　46587秒

六、三日五時二十三分十八秒を日數に直せ。

60)18 秒 .3(分)　　60)23.3 分 .38833+(時)　　24)5.38833 時 .2245 +日

答 3.2245日强.

七、5.732日 を複名數に直せ。

0.732 × 24 = 2928　14.64　17.568(時)

0.568 × 60 = 24.080(分)　　0.08 × 60 = 4.80秒

答 5日 17時 34分 4.8秒

八、次の名數を複名數に直せ。

6.7分　　10.8時　　40.25日

0.02日　　0.9735日　　7.26時

九、次の諸等數の和を求めよ。

(イ) 5里 23町 50間+3里 18町 23間 5尺×13里 52間 3尺

(ロ) 2日 12時 25分+15日 23時 15秒+3日 5時 45秒

一〇、午後九時四十分に寢ね、翌日六時二十分に起くる人と、午後十時廿分に寢ね、翌朝七時十五分に起くる人と其睡眠時間に何程の差あるか。

一一、二十五分に、木棉一尺五寸を織る工女あり、朝八時より午後六時五十分までに、何尺を織り得べきか。

一二、東西兩地の間を行くに、五時四十三分四十六秒を要するとき、往復に幾時間を要するか。

一三、次の積を求めよ。

5里 3町 25間×23

12時 53分 23秒×45

一四、十一時間に十五里二十三町四十五間二尺を行けり、平均一時間の行程如何。

里	町	間	尺	里	町	間	尺
12)15	23	45	3	(1	10	58	4.75
12	108	660	54				
3	131	705	57				
×36	12	60	48				
108	11	105	90				
	×60	96	84				
	660	9	60				
		×6	60				
		54	0				

答　1里 10町 58間 4.75尺

一五、次の商を求めよ。

（イ）　21日 15時 45分 30秒÷3

（ロ）　2日 11時 34分 56秒÷8

一六、次の計算を行ふべし。

19日 20時 19分 25秒÷12時 52分 25

〔解〕 19日 20時 19分 25秒＝1714765秒

12時 52分 25秒＝ 46345秒

1714765÷46345＝37　　答　三十七

名但行通々す等諸規
數しふじ最る數等則
と商べ除低にに數
なはし法位はエを
るヲ不　をに各除諸

第十五章

一、各電柱柱間の距離、三十一間二尺とすれば、第一柱と第九十二柱までの距離幾何。

二、水桶に水を滿たせるものあり、其三分の一を汲み出し、後又一斗五升を汲み出したるに、尚ほ全桶の半を殘せり、桶の全容量は何程。

〔解〕 桶の全容量を1とす、初め $\frac{1}{3}$ を汲み出し、最後に $\frac{1}{2}$ を殘したり此によりて見れ

ば第二回に汲み出したる15升は全容積の何分處に當るかといふに $1-\left(\frac{1}{3}+\frac{1}{2}\right)=\frac{1}{6}$ なり
即ち全容量の $\frac{1}{6}=15$ 升　從て全容量は $15升+\frac{1}{6}=90升$

答　九斗

三、某學校の女生徒は、全生徒の $\frac{12}{15}$ にして、百四十二人なりといふ、男生徒の數は何程。

〔解〕　全生徒の $\frac{12}{15}=142$ なり　從て全生徒は $142\div\frac{12}{15}=165$ なり
男生徒は全生徒の $1-\frac{12}{15}=\frac{13}{15}$ なり
即ち男生徒は $165人\times\frac{13}{15}=143人$

答　百四十三人

四、左の値を問ふ。
$\frac{1}{5}$ が13なる數は如何。
$\frac{3}{7}$ が24圓なる値は如何。

五、次の値を求めよ。
（イ）0.03が18斗なる高は如何。
（ロ）1.12が38.0圓なる値は如何。

六、一冊の書籍を、二十八枚讀みしに、尚ほ $3\frac{1}{7}$ 殘れり、書籍の枚數は何程。

二十八枚は全體の何部分に當るか

七、金一圓に付 $5\frac{2}{3}$ 升なる米、二石三斗の値は如何。

八、二錢に三つの桃と、四つの桃とあり、各々一つの値は何程。

〔解〕　2錢に3つの桃1箇の値は $2錢\div3=\frac{2}{3}錢$
2錢に4つの桃1箇の値は $2\div4=\frac{1}{2}錢$

答　〔三分の二錢
　　〔二分の一錢

九、米八俵の價五十四圓なりとせば、五分の三俵の價如何なるか。

〔解〕　$\frac{3}{5}\div8=\frac{3}{40}$ なり
從て $\frac{3}{5}$ 俵の價は8俵の價54圓の $\frac{3}{40}$ なり　即ち $54\times\frac{3}{40}=4\frac{1}{20}$ 圓

一〇、某數あり、之に $\frac{7}{8}$ と、$3\frac{1}{5}$ とを加ふれば、三個となる、某數何程。

答　四圓二十分の一

一一、或數の五分の二は、百七十三なり、某數何程。

一二、兩數の和 $25\frac{2}{13}$ にして、兩數の差 $3\frac{1}{4}$ なり、各數如何。

一三、木棉あり、初め其 $\frac{5}{8}$ を切り、次に殘りの $\frac{1}{3}$ を切りしに、尚ほ三尺殘れり、木棉の初めの長さ如何。

一四、二人の農夫あり、甲は四日に二段一畝五歩を耕し、乙は二日に九畝二十四歩を耕すといふ、今兩人にて六段二畝十五歩の地を耕すには何日を要するか。

一五、職工あり、四日間に二圓四十五錢を得たり、此割合にて、十三日間には何程を得るか。

一六、人夫あり、一週と二日間に、賃錢五圓三十錢を得たり、賃錢十二圓を得んには、何日間働くべきか。

第十六章

一、一メートルは我何尺に當るか。

二、一キロメートル如何。

三、一センチメートルは我何程に當るか。

〔解〕三分三厘を一センチメートールといふ。

四、〇、〇一メートルを何といふか。

五、一ミルメートルとは如何。

一メートルの千分の一なり。

六、次の名數を我尺寸分に直せ。

25米　　3.43米

一メートルは三尺三寸なり

一〇〇〇メートルは即ち一キロメートル（粁）なり

〇、〇一メートルは即ち一センチメートルなり

ミルメートルを單にミルと稱し

センチメートルをサンチと云ふことあり

85糎（センチメートル）　23.7糎

7粍（ミルメートル）　5粁（キロメートル）

4.3粁　0.25粍

七、一粁（キロメートル）は我何町何間何尺に當るか。

八、音は一秒時に、三百四十米（メートル）を進（す）むといふ、此を我町間尺に直せ。

九、次の長さを粁、米、糎、粍に直せ。

9.9尺　3分3厘

49.5尺　3960尺

一粁（キロメートル）は一米（メートル）（三尺三寸）の千倍なり

一〇、一哩（マール）は何粁（キロメートル）に當るか（但し一哩は十四町四十五間なり）

一一、甲乙二人あり、甲の身長は五尺二寸三分にして、乙は一五〇糎（センチメートル）なり、兩人の差は何寸何分なるか。

一二、直徑（ちょくけい）（すわりタシ）三〇米なる圓形（ゑんけい）の池（いけ）あり、其周圍（しゅーゐ）は何間何尺か。

五メートル平方と五平方メートルの區別

一三、光の速さは、一秒時に三十一萬粁（キロメートル）なり、我何里に當るか。（但し里以下は小數を用ふべし）

一四、三里十二町の土地に行かんとす、既（すで）に四粁（キロメートル）を行けり、殘（のこ）りは何里何町何間何尺か。

一五、富士山の高さは12370尺なり、何米（メートル）なるか。

第十七章

一、一平方メートルとは如何。

〔解〕各邊（へんども）共一メートルなる正方形の面積（めんせき）を一平方メートルといふ。

二、五平方メートルとは如何。

〔解〕一平方メートルの正方形、五つ集りたる面積にして、五メートル平方と混同すべからず。

三、五メートル平方の面積は、何平方メートルあるか。

〔解〕 5×5=25 平方メートル。

四、一平方粁（キロメートル）は何平方米なるか。

〔解〕 一平方粁は各邊の長さ一粁（一千米）なる正方形の面積なるが故、其面積を平方米を以て表はせば　1000×1000=1000000 平方米

五、一平方糎は、此を平方米を單位として表はすときは幾何なるか。

〔解〕 一平方糎とは各邊の糎なる正方形の面なれば、此を平方米を單位（たんゐ）として表（あら）はす時は 0.01米×0.01米=0.0001 平方メートル　答　〇、〇〇〇一平方メートル

六、左の邊を有する正方形なる地の面積は何程。

（イ）7.5 粁　（ロ）23 糎

七、左の兩邊（りょーへん）を有する矩形（くけい）の面積（めんせき）は何程。

縦 12 粁　3.4 米　2.0 糎
横 7 粁　2 米　17 糎

八、地積（ちせき）の基本單位（きほんたんゐ）一アールとは如何。

一〇〇平方メートルを地積單位一アールといふ

一平方粁は1000000平方米に當る

〔解〕 一アールとは一〇米平方にして 10×10=100平米方

九、左の土地の面積は幾アールなるか。

（イ）2500 平方米……答　25アール

（ロ）372 平方米……答　3.72アール

（ハ）1 平方粁……答　10000アール

〔解〕 1平方粁……1000×1000=1000000 平方米
而して一（アール）は 100 平方米なれば 1000000÷100=10000 アール

（ニ）4.523 平方粁

〔解〕 4.523 平方キロメートル=4523000 平方メートル
而して 100 平方メートルが 1 アールなれば
4523000 平方メートルは=45230 アール

一〇、一アールは何坪（つぼ）に當るか。

〔解〕 1 アールは 10米平方即ち我 33尺平方なり

從て1アールの面積を我平方尺を單位として表はせば
33尺×33尺=1089平方尺
而して一坪は6×6=36平方尺なれば
1アールを坪に直すには 1089÷36=30.25坪

一一、某數あり、之に25を乘じ、23.65を加へ、23にて除すれば、其商8.2を得るといふ、某數を求む。

一二、一斤一圓二十錢の茶六十四斤と、一圓五十錢の茶五十三斤とを混じて、之を一斤一圓四十錢に賣る時は、損益如何。

一三、姉妹二人の女工あり、共に同日間働きて、金三十四圓五十錢を得たり、而して毎日の賃錢姉は八十錢、妹は七十錢なる時は、働きし日數何日なるか。

〔解〕 3450÷(79+80)=23日　答 二十三日

一四、大小二數あり、大は小の六倍にして、差は百二十五なりといふ、大小各々幾何なるか。

〔解〕 小を1とせば大は6なる割合なり從て差は6−1=5なる割合に對する實際の高は125なり
從て1なる割合に對する高は125÷5=25なり
即ち小は25にして大は25×6=150

答 {大……150 / 小……25}

一五、父子あり、其年の和六十四才にして、父は子の七倍なりとせば、各々幾何なるか。

一六、或る數の五倍に十七を加ふれば、五百四十二となる、或る數何程。

第十八章

一、次の小數を分數に直せ。

0.5　0.25　0.125

23.08　　30.24

二、次の分數を小數に直せ。

$\frac{1}{25}$　$\frac{3}{100}$　$3\frac{3}{4}$

0.3254

三、地價六百七十圓を有する人の一年の地租は何程。

但地租の稅率は、地價の百分の二半とす。

$670 \times 0.025 = 16.750$ 圓

四、或人二千圓の地價を有せり、稅率 0.025 の地租何程なるか、且又非常特別稅法による增額如何。

但し非常特別稅法による增額を市街宅地、郡村宅地、其他の土地と塲合を異にして、計算せよ。

五、地價二千五百三十圓の畑あり、之を市街宅地に編入すれば、一ヶ年の地租及其增額に付、幾何を增すか。

明治三十七年分より非常特別稅法により左の額を增す

一、市街宅地……地價の 0.055

二、郡村宅地……地價の 0.035

稅率 $\frac{2.5}{100}$ 即ち 0.025 なり

三、其他の土地……地價の 0.018

所得稅率

第一種法人の所得……0.025

第二種公債社債の利子……0.02

第三種上の二種に屬せざる所得をいふ

一ヶ年の收入

三百圓以上……0.01

五百圓以上……0.012

千圓以上……0.015

二千圓以上……0.017

六、或人地價若干の田を有し、地租竝に非常特別稅法による增額共に二百十五圓を納めたり、地價額何程。

$215 \text{圓} \div (0.025 + 0.018) = 5000 \text{圓}$

七、公債の利子は、其中より所得稅を引き去りたる殘額を拂渡さる、利子三百圓を得べき人の、實際の收入高は何程なるか。

〔解〕公債の利子の率の 0.02 より所得稅を出すが故に實收入の率は $300 \times (1 - 0.02) =$

294圓

答　二百九十四圓

八、軍事公債額面百圓にして、五分の利附なり、然らば拾枚を有する人は、一箇年の收入何程。

九、軍事公債毎回二十圓の利子を得る人の所有額面何程。

〔解〕利子は半年毎に拂渡さる故に 1 回毎に 20 圓とすれば 1 ヶ年に $20 \times 2 = 40$ 圓なり。

入學者試驗準備　算術科　第十八章　・　・　・